

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ヒロシマケンコウリツダガクカクホウジン 広島県公立大学法人								
フリガナ大学の名称	ケンリツヒロシマダガクカクホウケン 県立広島大学大学院(Graduate School, Prefectural University of Hiroshima)								
大学本部の位置	広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号								
大学の目的	地域に貢献する知の創造、応用及び蓄積を図る知的活動の拠点として、主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる実践力のある人材を育成するとともに、地域に根ざした高度な研究を行い、地域社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	地域において保健・医療・福祉分野の発展に貢献できる高度専門職業人の指導者層とその専門性を活かした教育者、研究者を育成する。保健福祉のより高度な知識と技能を一体的に修得し、他の専門職や地域機関と連携する能力を備えることで、保健・医療・福祉に関わる指導的役割を果たすことができる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 保健福祉学部保健福祉学科 看護学コース、理学療法学コース、作業療法学コース、コミュニケーション障害学コース、人間福祉学コース ※令和3年4月学部の学科の設置（R20525届出） 【基礎となる専攻】 総合学術研究科保健福祉学専攻（修士課程） 14条特例の実施
	総合学術研究科 (Graduate School of Comprehensive Scientific Research) 保健福祉学専攻博士課程 (Doctor Course of Health and Welfare, Program in Health and Welfare) 計	3 —	5 5	— —	15 15	博士(保健福祉学) (Doctor of Philosophy in Health and Welfare)	令和4年4月 第1年次	広島県三原市学園町1-1	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和4年4月 総合学術研究科保健福祉学専攻博士課程後期の開設に合わせ、修士課程を博士課程前期に改める。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	総合学術研究科保健福祉学専攻博士課程後期	講義	演習	実験・実習	計	24単位			
		13科目	20科目	0科目	33科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任員等
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	総合学術研究科保健福祉学専攻博士課程後期	24 (24)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	6 (6)
			()	()	()	()	()	()	()
		計	24 (24)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	6 (6)
	既設分	総合学術研究科人間文化学専攻修士課程	16 (16)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	10 (10)
		総合学術研究科情報マネジメント専攻修士課程	13 (13)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)
		総合学術研究科生命システム科学博士課程前期	16 (16)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	0 (0)
		総合学術研究科生命システム科学博士課程後期	24 (24)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	0 (0)
総合学術研究科保健福祉学専攻修士課程		38 (38)	17 (17)	1 (1)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	3 (3)	
経営専門職大学院経営管理学研究科修士課程		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)	
計		92 (92)	46 (46)	4 (4)	0 (0)	142 (142)	0 (0)	26 (26)	
合計		92 (92)	46 (46)	4 (4)	0 (0)	142 (142)	0 (0)	26 (26)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体				
	事 務 職 員		77人 (77)	55人 (55)	132人 (132)						
	技 術 職 員		0人 (0)	3人 (3)	3人 (3)						
	図 書 館 専 門 職 員		1人 (1)	3人 (3)	4人 (4)						
	そ の 他 の 職 員		0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)						
	計		78人 (78)	61人 (61)	139人 (139)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体 <small>(運動場用地のうち、三原市からの借用地面積：9923.12㎡/借用期間：平成29年4月1日～平成39年(令和9年3月31日)</small>				
	校 舎 敷 地	136,062㎡	0㎡	0㎡	136,062㎡						
	運 動 場 用 地	45,604㎡	0㎡	0㎡	45,604㎡						
	小 計	181,666㎡	0㎡	0㎡	181,666㎡						
	そ の 他	121,857㎡	0㎡	0㎡	121,857㎡						
	合 計	303,523㎡	0㎡	0㎡	303,523㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体				
		86,806㎡ (86,806㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	86,806㎡ (86,806㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	23室	29室	27室	3室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数							
		保健福祉学専攻 博士課程後期		26室							
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	保健福祉学部 総合学術研究科と 共用			
	保健福祉学専攻 博士課程後期	115,735 [9,783]	158 [59]	15 [15]	4,427	22	0				
		115,735 [9,783]	158 [59]	15 [15]	(4,427)	(22)	(0)				
	計	115,735 [9,783]	158 [59]	15 [15]	4,427	22	0				
		115,735 [9,783]	158 [59]	15 [15]	(4,427)	(22)	(0)				
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体					
		6,660㎡	599	571,195							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
		6,231㎡	テニスコート6面								
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コストを含む。)を含む。	
		教員1人当り研究費等		620千円	620千円	620千円	—	—	—		
		共同研究費等		2,794千円	2,794千円	2,794千円	—	—	—		
		図書購入費	18,417千円	18,417千円	18,417千円	18,417千円	—	—	—		
	設備購入費	94,035千円	176,622千円	88,488千円	88,488千円	—	—	—			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			※学生納付金は上段が県内の学生、下段が県外からの学生	
		818千円	536千円	536千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		広島県からの運営費交付金を充当する									
大 学 の 名 称		県立広島大学									
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
	年	人	年次	人							
	人間文化学部							広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号			
	国際文化学科	4	85	—	340	学士(国際文化学)	—	平成17年度	※令和2年度より学生募集停止		
	健康科学科	4	35	—	140	学士(健康科学)	—	平成17年度	※令和2年度より学生募集停止		
経営情報学部								広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号			
経営学科	4	60	—	240	学士(経営学)	—	平成17年度	※令和2年度より学生募集停止			
経営情報学科	4	40	—	160	学士(経営情報学)	—	平成17年度	※令和2年度より学生募集停止			

既設大学等の状況	生命環境学部										広島県庄原市七塚町5562番地	
	生命科学科	4	110	—	440	学士（生命科学）	—	平成17年度				※令和2年度より学生募集停止
	環境科学科	4	55	—	220	学士（環境科学）	—	平成17年度				※令和2年度より学生募集停止
	保健福祉学部							1.03			広島県三原市学園町1番1号	
	看護学科	4	60	—	240	学士（看護学）	1.02	平成17年度				※令和3年度より学生募集停止
	理学療法学科	4	30	—	120	学士（理学療法）	1.03	平成17年度				※令和3年度より学生募集停止
	作業療法学科	4	30	—	120	学士（作業療法）	1.03	平成17年度				※令和3年度より学生募集停止
	コミュニケーション障害学科	4	30	—	120	学士（コミュニケーション障害）	1.02	平成17年度				※令和3年度より学生募集停止
	人間福祉学科	4	40	—	160	学士（人間福祉）	1.04	平成17年度				※令和3年度より学生募集停止
	地域創生学部							1.06				
	地域創生学科					学士（地域創生）	1.06	令和2年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号		地域創生学科の3コースはそれぞれに定員を設定しているが、うち地域文化コース及び地域産業コースについては、一般選抜（後期日程）において経過選択制を導入しているため、まとめて記載する。
	生物資源科学部							1.06	令和2年度		広島県庄原市七塚町5562番地	
	地域資源開発学科	4	40	—	160	学士（地域資源開発）	1.05					
	生命環境学科	4	100	—	400	学士（生命環境）	1.06					
	保健福祉学部							—				
	保健福祉学科	4	190	—	780	学士（保健福祉）	—				広島県三原市学園町1番1号	
	看護学コース	4	60	—	240		—	令和3年度				
	理学療法学コース	4	30	—	120		—					
	作業療法学コース	4	30	—	120		—					
	コミュニケーション障害学コース	4	30	—	120		—					
	人間福祉学コース	4	40	—	160		—					
	大学院総合学術研究科											
	人間文化学専攻	2	10	—	20	修士（人間文化）	0.80	平成17年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号		
	情報マネジメント専攻	2	10	—	20	修士（経営情報）	0.98	平成17年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号		
	生命システム科学専攻（博士前期）	2	30	—	60	修士（生命システム科学）	0.59	平成17年度		広島県庄原市七塚町5562番地		
	生命システム科学専攻（博士後期）	3	5	—	15	博士（生命システム科学）	1.05	平成17年度		広島県庄原市七塚町5562番地		
	保健福祉学専攻	2	20	—	40	修士（保健福祉）	1.09	平成17年度		広島県三原市学園町1番1号		
大学院経営管理研究科												
ビジネスリーダーシップ専攻	2	25	—	50	経営修士（専門職）	1.17	平成28年度		広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号			
叡啓大学												
ソーシャルシステムデザイン学部												
ソーシャルシステムデザイン学科	4	100	—	400	学士（学術）	—	令和3年度		広島県広島市中区幟町1番5号			

附属施設の概要	〔名称〕 高等教育推進機構 〔目的〕 教育改革の戦略・立案，教学 I R の推進 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 (庄原) 庄原市七塚町 5562 番地 (三原) 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 令和 2 年 4 月 〔規模等〕 大学教育実践センターなど
	〔名称〕 大学教育実践センター 〔目的〕 全学共通教育等の教育システムの確立 入学から・就職・進学までの一元的サポート 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 (庄原) 庄原市七塚町 5562 番地 (三原) 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 令和 2 年 4 月 〔規模等〕 学生相談室，キャリアセンターなど
	〔名称〕 学術情報センター 〔目的〕 学術情報の収集・発信，情報化推進等の教育・研究活動の支援 附属図書館の管理・運営 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 (庄原) 庄原市七塚町 5562 番地 (三原) 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 平成 17 年 4 月 〔規模等〕 図書館，情報処理演習室 など
	〔名称〕 地域基盤研究機構 〔目的〕 地域に開かれた大学としての地域連携や研究推進の連携，生涯学習の支援等 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 (庄原) 庄原市七塚町 5562 番地 (三原) 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 平成 31 年 4 月 〔規模等〕 地域連携センター など
	〔名称〕 地域連携センター 〔目的〕 地域連携，産学官連携，知的財産の総括等 〔所在地〕 (広島) 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 (庄原) 庄原市七塚町 5562 番地 (三原) 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 平成 17 年 4 月 〔規模等〕 ー
	〔名称〕 宮島学センター 〔目的〕 世界遺産宮島の学術研究と学生教育，地域連携の一体的推進 〔所在地〕 広島市南区宇品東一丁目 1 番 71 号 〔設立年月〕 平成 21 年 4 月 〔規模等〕 ー
	〔名称〕 生物資源科学部附属フィールド科学教育研究センター 〔目的〕 地域の研究・食料の知的拠点。高度な研究活動を支え，多様な人材を育成 〔所在地〕 庄原市七塚町 5562 〔設立年月〕 平成 23 年 4 月 〔規模等〕 食品加工場，実験室，温室，圃場 など
	〔名称〕 保健福祉学部附属診療センター 〔目的〕 保健福祉学部における教育研究及び実習の実施，リハビリテーション診療の実施 〔所在地〕 三原市学園町 1 番 1 号 〔設立年月〕 平成 17 年 4 月 〔規模等〕 リハビリテーション施設 など

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「ー」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(総合学術研究科 保健福祉学専攻 博士課程後期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	地域課題解決特論	1前	2			○			4						オムニバス
	情報伝達技術特論	1前		2		○			1						兼2 オムニバス
	保健福祉サービス・アウトカム特論	1後		2		○			2						兼1 オムニバス
	専門能力開発特論	1前		2		○			3						兼1 オムニバス
	小計（4科目）	—	2	6	0	—	—	—	8						兼4
専門支持科目	職種間連携マネジメント特論	1前		2		○			2						兼1 オムニバス
	生涯発達支援統合特論	1後		2		○			2						オムニバス 共同（一部）
	高齢者支援統合特論	1前		2		○			4	1					オムニバス
	ヘルスプロモーションシステム特論	1前	2			○			5						オムニバス
	小計（4科目）	—	2	6	0	—	—	—	13	1					兼1
専門科目	地域保健学・実践看護学特別講義	1後		2		○			6						オムニバス
	地域保健学・実践看護学特別演習	1後		2			○		6						オムニバス
	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅰ	1通		4			○		4						
	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4						
	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅲ	3通		4			○		4						
	運動行動障害学特別講義	3		2		○			3						兼1 オムニバス
	運動行動障害学特別演習	1後		2			○		3						兼1 オムニバス
	運動行動障害学特別研究Ⅰ	1通		4			○		3						
	運動行動障害学特別研究Ⅱ	2通		4			○		3						
	運動行動障害学特別研究Ⅲ	3通		4			○		3						
	作業遂行障害学特別講義	1後		2		○			4						オムニバス
	作業遂行障害学特別演習	1後		2			○		4						オムニバス
	作業遂行障害学特別研究Ⅰ	1通		4			○		4						
	作業遂行障害学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4						
	作業遂行障害学特別研究Ⅲ	3通		4			○		4						
	コミュニケーション障害・脳科学特別講義	1後		2		○			4						オムニバス
	コミュニケーション障害・脳科学特別演習	1後		2			○		4						オムニバス
	コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅰ	1通		4			○		4						
	コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅱ	2通		4			○		4						
	コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅲ	3通		4			○		4						
	ヒューマンサービス特別講義	1後		2		○			4	1					オムニバス
	ヒューマンサービス特別演習	1後		2			○		4	1					オムニバス
	ヒューマンサービス特別研究Ⅰ	1通		4			○		4	1					
	ヒューマンサービス特別研究Ⅱ	2通		4			○		4	1					
	ヒューマンサービス特別研究Ⅲ	3通		4			○		4	1					
小計（25科目）	—	0	80	0	—	—	—	21	1					兼1	
合計（33科目）		—	4	92	0	—	—	—	24	2					兼6
学位又は称号	博士（保健福祉学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【修了要件】 博士後期課程に3年以上在学し、24単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>【履修単位】 共通科目から必修2単位を含む4単位以上、専門支持科目から4単位以上を修得する。専門科目は各分野・領域の特別講義と特別演習の各2単位は、主研究指導教員が属する分野・領域以外から選択し履修する。研究指導教員が担当する特別研究Ⅰ4単位、特別研究Ⅱ4単位、特別研究Ⅲ4単位を履修する。</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
（総合学術研究科 保健福祉学専攻 博士課程前期）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	リハビリテーション科学特論	1・2前		2		○			1						
	コミュニケーション特論	1・2後		2		○			1						
	保健医療福祉研究法Ⅰ（保健・看護）	1・2前		2		○			1						
	保健医療福祉研究法Ⅱ（リハビリテーション）	1・2前		2		○			1						
	保健医療福祉研究法Ⅲ（ヒューマンサービス）	1・2前		2		○				1					
	保健医療福祉管理学特論	1・2後		2		○				1					
	医療福祉倫理学特論	1・2前		2		○			1						兼1 オムニバス
	保健福祉専門職教育特論	1・2前		2		○			3						オムニバス
	地域福祉学特論	1・2後		2		○			1						
	高齢者医療福祉特論	1・2後		2		○				2					オムニバス
	小計（10科目）	—	0	20	0	—			8	4					兼1
専門支持科目	人体構造機能学特論	1・2後		2		○			1						
	生体生理機能学特論	1・2前		2		○			1						
	免疫学特論	1・2前		2		○				1					
	疫学特論	1・2後		2		○			1						
	がん治療学特論	1・2後		2		○									兼1
	緩和ケア特論	1・2後		2		○			1						兼1 オムニバス
	公衆衛生活動特論	1・2後		2		○				1					
	女性の健康支援論	1・2後		2		○			1	1					オムニバス
	脳神経機能病態学特論	1・2前		2		○			1						
	精神医学特論	1・2前		2		○			1						
	動作観察・分析学特論	1・2前		2		○			1						
	感覚運動発達・学習特論	1・2後		2		○			1						
	環境制御運動学特論	1・2後		2		○			1						
	内部障害リハビリテーション学特論	1・2前		2		○					1				
	作業科学	1・2後		2		○			1	1					オムニバス
	臨床心理学特論	1・2後		2		○				1					
	社会保障特論	1・2後		2		○				1					
	公的扶助特論	1・2前		2		○				1					
精神保健福祉特論	1・2後		2		○				1						
障害者福祉論特論	1・2前		2		○				1						
地域精神保健福祉学特論	1・2後		2		○				1						
小計（21科目）	—	0	42	0	—			11	10	1				兼2	
地域保健学・実践看護学分野	生体環境反応学特論	1前		2		○			1						
	生体環境反応学演習	1後		4			○		1						
	健康科学特論	1前		2		○			1						
	健康科学演習	1後		4			○		1						
	地域保健学特論	1前		2		○			1						
	地域保健学演習	1後		4			○		1						
	がん看護学特論	1前		2		○			1						
	がん看護学演習	1後		4			○		1						
	小児看護学特論	1前		2		○			1						
	小児看護学演習	1後		4			○		1						
	成人看護学特論	1前		2		○			1						
	成人看護学演習	1後		4			○		1						
	フィジカルアセスメント特論	1前		2		○			1						
	フィジカルアセスメント演習	1後		4			○		1						
	精神看護学特論	1前		2		○				1					
	精神看護学演習	1後		4			○			1					
	ウイメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			1						
	ウイメンズヘルス看護学演習	1後		4			○		1						
地域保健学・実践看護学特別研究	1～2通	0	10	0	○			8	1						

専 門 科 目	運 動 行 動 障 害 学 領 域	医療情報統計学特論	1前	2		○		1						オムニバス
		医療情報統計学演習	1後	4			○		1					
		脳神経機能学特論	1前	2		○		1						
		脳神経機能学演習	1後	4			○		1					
		運動障害病態学特論	1前	2		○		1						
		運動障害評価学特論	1前	2		○		1						
		運動障害評価・病態学演習	1後	4			○		2					
		機能・形態障害治療学特論	1前	2		○		1						
		運動障害治療学演習	1後	4			○		1					
		筋・骨格系障害疼痛治療学特論	1前	2		○		1						
		筋・骨格系障害疼痛治療学演習	1後	4			○		1					
		生体情報計測学特論	1前	2		○		1						
		生体情報計測学演習	1後	4			○		1					
		人体動態解析学特論	1前	2		○		1						
		人体動態解析学演習	1後	4			○		1					
		発達科学特論	1前	2		○		1						
		身体活動支援学特論	1前	2		○		1						
	ヘルスプロモーション科学演習	1後	4			○		2						
	医療教育学特論	1前	2		○		1							
	医療教育学特論	1後	4			○		1						
	運動行動障害学特別研究	1~2通	0	10	0	○		10						
	総 合 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 分 野	作 業 遂 行 障 害 学 領 域	身体・老年期障害作業療法学特論	1前	2		○		1					共 同 共 同
			身体・老年期障害作業療法学演習	1後	4			○		1				
			作業遂行認知・心理機能障害学特論	1前	2		○		1					
			作業遂行認知・心理機能障害学演習	1後	4			○		1				
			小児・発達期生涯病態学特論	1前	2		○		1					
小児・発達期生涯病態学演習			1後	4			○		1					
精神障害病態学特論			1前	2		○		1						
精神障害病態学演習			1後	4			○		1					
作業遂行学特論			1前	2		○		2						
作業遂行学演習			1後	4			○		2					
作業遂行応用学特論			1前	2		○		1						
作業遂行応用学演習	1後	4			○		1							
作業遂行障害学特別研究	1~2通	0	10	0	○		7							
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 障 害 ・ 脳 機 能 科 学 領 域	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 障 害 ・ 脳 機 能 科 学 領 域	認知神経心理学特論	1前	2		○		1						
		認知神経心理学特論	1後	4			○		1					
		認知・言語機能障害学特論	1前	2		○			1					
		認知・言語機能障害学演習	1後	4			○			1				
		認知科学特論	1前	2		○		1						
		認知科学演習	1後	4			○		1					
		音声機能障害学特論	1前	2		○		1						
		音声機能障害学演習	1後	4			○		1					
		音声言語医学特論	1前	2		○		1						
		音声言語医学演習	1後	4			○		1					
		構音障害学特論	1前	2		○		1						
		構音障害学演習	1後	4			○		1					
		摂食嚥下リハビリテーション学特論	1前	2		○		1						
		摂食嚥下リハビリテーション学演習	1後	4			○		1					
		拡大代替コミュニケーション特論	1前	2		○		1						
		拡大代替コミュニケーション演習	1後	4			○		1					
		脳神経機能障害学特論	1前	2		○		1						
		脳神経機能障害学演習	1後	4			○		1					
オーディオロジー学特論	1前	2		○		1								
オーディオロジー学演習	1後	4			○		1							
コミュニケーション障害・脳科学特別研究	1~2通	0	10	0	○		9	1						

ヒューマン・サービス分野	臨床家族ソーシャルワーク特論	1前		2		○			1					
	臨床家族ソーシャルワーク演習	1後		4			○		1					
	適応行動学特論	1前		2		○		1						
	適応行動学演習	1後		4			○	1						
	介護福祉学特論	1前		2		○		1						
	介護福祉学演習	1後		4			○	1						
	ケアマネジメント特論	1前		2		○		1						
	ケアマネジメント演習	1後		4			○	1						
	福祉政策特論	1前		2		○		1						
	福祉政策演習	1後		4			○	1						
	メンタルヘルス・ソーシャルワーク特論	1前		2		○		1						
メンタルヘルス・ソーシャルワーク演習	1後		4			○	1							
ヒューマン・サービス特別研究	1～2通		10			○		5	1					
合計（118科目）		—	0	356	0	—		38	17	1	0	0	兼3	
学位又は称号	修士（保健福祉学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係），保健衛生学関係（リハビリテーション関係），保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
【修了要件】 修士課程に2年以上在学し，30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し，その審査及び最終試験に合格すること。 【履修単位】 共通科目から4単位以上，専門支持科目から6単位以上，専門科目（研究指導教員が担当する特論科目，演習科目及び特別研究科目を含む）から20単位の合計30単位以上を履修・修得すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(保健福祉学部保健福祉学科看護学コース)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		2	3	3	5			
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		3	2	5	3			
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		1						
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		1						
	英語総合Ⅰ	1①	1				○		1						
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1					
	英語総合Ⅲ	2③		1			○			1					
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		1						
	英語表現Ⅰ	1③	1				○				1			兼1	
	英語表現Ⅱ	1④	1				○				1			兼1	
	英語表現Ⅲ	2①		1			○				1			兼1	
	英語表現Ⅳ	2②		1			○				1			兼1	
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1①	1				○							兼1	
	スポーツ実技Ⅱ	2③		1			○							兼1	
	保健体育理論	2④	2				○							兼1	
小計 (23科目)	—	—	10	14	0	—	—	—	7	4	6	7	0	兼7	
全学共通教育科目	学際知	哲学	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		文学	1・2・3・4②		2		○							兼3	メディア
		芸術	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		心理学	1・2・3・4④		2		○			1					メディア
		社会学	1・2・3・4①		2		○				1				メディア
		歴史学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		倫理学	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		経済学	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		科学史	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		生命倫理	1・2・3・4②		2		○			2					共同・メディア
		基礎数学	1・2・3・4③		2		○			1					
		統計入門	1・2・3・4④	2			○			1					
		家族社会学	1・2・3・4④		2		○				1				メディア
		文化人類学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		法学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		食と健康	1・2・3・4④		2		○							兼1	
		いのちと科学	1・2・3・4①		2		○				1				
		環境と科学	1・2・3・4②		2		○							兼2	メディア・オムニバス
		生活に役立つ力学	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		地域社会と言語	1・2・3・4④		2		○							兼1	メディア
小計 (21科目)	—	—	2	40	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼15	
論理思考表現	アカデミック・ライティング	1③	1				○		4	3	2	4			
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		3	2	2	0			
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		1	3	2	1			
	小計 (3科目)	—	1	2	0	—	—	—	8	7	5	5	0	—	
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○							兼3	メディア
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○				1			兼1	メディア
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○				1			兼3	集中
	地域教養ゼミナールA	2・3・4①③		2			○							兼4	
	地域教養ゼミナールB	2・3・4②④		2			○		3	1				兼6	
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	3	1	2	0	0	兼15	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科看護学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)		2		○			1		1				兼1 兼2 集中・オムニバス 集中 兼1 集中 兼2 メディア
		ライフデザイン		2		○									
		ボランティア		2		○									
		インターンシップ		2		○									
		リーダー論		2		○									
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼4	—
	ダイバーシティ	多様性理解 (ジェンダー論)		2		○			1	1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		人間関係論		2		○									
		人権論		2		○									
		世界の宗教		2		○									
		世界の言語と文化		2		○									
		海外研修		2			○								
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—	—	1	2	0	0	0	兼4	—	
	入門演習	英語入門演習	1①②		1		○		0	0	0	0	0	0	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		数学入門演習	1①②		1		○								
		国語入門演習	1①②		1		○								
		社会入門演習	1①②		1		○								
		生物入門演習	1①②		1		○								
		物理入門演習	1①②		1		○								
		化学入門演習	1①②		1		○								
		小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—							
人間と社会生活の理解に関する科目	解剖学概論	1①	1			○		1						兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0	
	生理学概論	1②	1			○									
	微生物と人間	1③	1			○									
	人間発達学	1④	1			○									
	発達心理学	1①	1			○									
	生活環境科学	2②	1			○									
	福祉と社会問題	2②	1			○									
	小計 (7科目)	—	4	3	0	—	—								8
地域包括ケアシステムを発展させる科目	保健福祉概論	1①	1			○		4	1	1				兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0 兼0	
	保健医療福祉行政論	3②	1			○									
	ケアマネジメント論	3③	1			○									
	地域包括ケアシステム論	2④	1			○									
	リーダーシップと協働	4④	1			○									
	チーム医療福祉論	1②	1			○									
	チーム医療福祉演習	4③	1				○								
	小計 (7科目)	—	6	1	0	—	—								13
専門領域理解の基礎となる科目	臨床心理学	1④		1		○		1	1	1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	カウンセリング論	2③		1		○									
	生化学	1④	1			○									
	生体機能学	1②	1			○									
	薬理学	2①②	1			○									
	病理学	1③④	1			○									
	公衆衛生学	2①	1			○									
	臨床栄養学	1③	1			○									
	内科学	2①②	1			○									
	神経内科学概論 I	2①		1		○									
	神経内科学概論 II	2②		1		○									
	精神医学	2②	1			○									
	小児科学	2③	1			○									
	医療安全学	2③	1			○									
	救急医療	2③④		1		○									
	エンドオブライフ・ケア	3①		1		○									
保健医療福祉関係法規	1①	1			○										
小計 (16科目)	—	11	6	0	—	—	10	4	2	0	0	兼6	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科看護学コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
看護学 基礎 科目	保健統計学	2④	1			○			1						オムニバス
	統計処理演習	2①②		1			○		1						
	疫学	2③④	2			○			2						
	解剖学(看護特論)	1③	1				○		1						
	病態生理学	2①	1			○			1						
	免疫と感染	2①		1		○			1	1					
	小計(6科目)	—	5	2	0	—	—	—	5	1	0	0	0	兼0	
看護学 必修 科目	看護学概論	1②	1			○			1	1					兼0
	日常生活援助方法論Ⅰ(共通基本技術)	1③④	2				○		1	1	2				
	日常生活援助方法論Ⅱ(生活援助技術)	2①②	2				○		1	1	2				
	診療に伴う看護方法論	2②	1				○		1	1	2				
	看護理論と実践	2④	2			○			1	1	2				
	フィジカルアセスメント	2③	1				○		1	1	2				
	看護研究の基礎	3②	1			○			2						
	基礎看護実習Ⅰ	2③	1					○	1	1	2		4		
	基礎看護実習Ⅱ	2④	2					○	1	1	2		1		
	地域看護学概論	1③	1			○			1	1					
	地域看護対象論Ⅰ(個人・家族)	1④	1				○		1	2		2	1		
	地域看護対象論Ⅱ(集団・組織)	2④	1				○		1	2		2	1		
	地域包括ケア実習	3③	1					○		1	2	2	1		
	在宅看護論	2①	1			○					1	1			
	在宅看護展開論	2④	1			○					1	1			
	在宅看護実践論	3①	1				○				1	1			
	在宅看護実習(訪問)	4①②	2					○			1	1	2		
	成人の健康と看護	1④	1			○			2						
	急性期看護論	2①	2			○			1		1				
	急性期看護実践論	3②	1				○		1		1				
	急性期看護実習	3③④	3					○	1		1				
	慢性病看護論	2②	2			○			1		1				
	慢性病看護実践論	3①	1				○		1		1				
	慢性病看護実習	3③④	3					○	1		1		1		
	高齢者の健康と看護	2①	1			○			1	1					
	高齢者看護方法論	2②	1			○			1	1					
	高齢者看護展開論	3①	1			○			1	1					
	高齢者看護実践論	3②	1				○		1	1					
	高齢者看護実習	3③④	3					○	1	1					
	小児の健康と看護	2③	1			○			1		1	1			
	小児看護方法論	3①	1			○			1		1	1			
	小児看護展開論	3②	1			○			1		1	1			
	小児看護実践論	3④	1				○		1		1	1			
	小児看護実習	4①②	2					○	1		1	1			
	リプロダクティブヘルス看護論	2②	1			○			1		1				
	周産期看護方法論	3①	1			○			1		1				
	周産期看護展開論	3②	1				○		1		1				
	周産期看護実践論	3④	1			○			1		1				
	周産期看護実習	3④	2					○	1		1		1		
	メンタルヘルス看護論	2①	1			○				1	1				
	精神看護方法論	2③	1			○				1	1				
	精神看護展開論	3①	1			○				1	1				
	精神看護実践論	3②	1				○			1	1				
	精神看護実習	3④	2					○		1	1		1		
	統合実習Ⅰ	3③	1					○		1	7	3	6		
統合実習Ⅱ	4②	1					○	6	3			6			
看護統合演習	4②	1				○		6	3	5	2				
看護管理論	3②	1			○				1						
災害看護論	3①	1			○			2			1				
看護倫理	2②	1			○			1							
がん看護論	2④	1			○			1							
小計(51科目)	—	67	0	0	—	—	—	8	6	8	3	6	兼0	—	
看護学 選択 科目	認知症看護論	4①		1		○			1	1				オムニバス	
	看護教育論	2④		1		○			1						
	エンドオブライフ・ケア看護論	3②		1		○			1		1				
	家族看護論	3①		1		○			1						
	家族保健指導論	3②		1		○			1	1					
小計(5科目)	—	0	5	0	—	—	—	3	2	1	0	0	兼0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科看護学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ(保健所・市町)	3①②		2			○			1	1		1			
	公衆衛生看護活動論Ⅱ(産業・学校)	3①②		2			○			1	2		1			
	公衆衛生看護実践論	3④		1				○		1	2	1	2			
	公衆衛生看護展開論	4①		1				○		1	1		1			
	公衆衛生看護実習Ⅰ(保健所・市町)	4①②		3					○	1	2	1	2	1		
	公衆衛生看護実習Ⅱ(産業・学校)	4①②		2					○	1	2	1	1	1		
	小計(6科目)	—	0	11	0			—	1	2	1	2	1		兼0	—
関連する科目	養護概説	2①②		2			○				1					
	学校健康相談	3①②		2			○				1					
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	0	1	0	0	0		兼0	—
関連する実践科目	養護実習指導	4①		1				○			1					
	養護実習Ⅰ(特別支援学校)	4②		1							1					
	養護実習Ⅱ(学校)	4③		3							1					
	教職実践演習(養護教諭)	4③④		2				○			1					
	小計(4科目)	—	0	7	0			—	0	1	0	0	0		兼0	—
教職課程に関する科目	教育学概論	1③④		2			○									兼1
	教職入門	1③④		2			○									兼1
	教育社会学	2①②		2			○			1						兼1
	教育心理学	2①②		2			○			1						兼1
	教育課程論	2①②		2			○			2						兼1
	生徒指導論	2③④		2			○									兼1
	特別支援教育	2③④		1			○									
	道徳教育論	3①②		2			○									兼1
	総合的な学習の時間の指導法	3①②		2			○									兼1
	特別活動論	3①②		2			○									兼1
	教育方法学	3③④		2			○									兼1
	教育相談	3①②		2			○				1					
	小計(12科目)	—	0	23	0			—	3	1	0	0	0		兼7	—
研究	卒業研究	4①②③④		2				○		2	4	4	3			
	地域課題解決研究	4①②③④		2				○		42	21	17	13			
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	42	21	17	13	0		兼0	—
合計(188科目)		—	106	154	7			—	42	21	17	13	0		兼52	—
学位又は称号		学士(保健福祉学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「人間と社会生活の理解に関する科目」から4単位以上、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」から5単位以上、「専門領域理解の基礎となる科目」から13単位以上、「看護学基礎科目」から3単位以上、「看護学必修科目」から67単位、「看護学選択科目」から4単位以上、「卒業研究」から2単位の合計134単位以上修得すること。								1学年の学期区分			4学期					
								1学期の授業期間			8週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(保健福祉学部保健福祉学科理学療法学コース)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		2	3	3	5			
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		3	2	5	3			
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		1						
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		1						
	英語総合Ⅰ	1①	1				○		1						
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1					
	英語総合Ⅲ	2③		1			○			1					
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		1						
	英語表現Ⅰ	1③	1				○				1			兼1	
	英語表現Ⅱ	1④	1				○				1				
	英語表現Ⅲ	2①		1			○				1				
	英語表現Ⅳ	2②		1			○				1			兼1	
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1①	1				○							兼1	
	スポーツ実技Ⅱ	2③		1			○							兼1	
	保健体育理論	2④		2			○							兼1	
小計(23科目)	—	—	8	16	0	—	—	—	7	4	6	7	0	兼7	
全 学 共 通 教 育 科 目	学 際 知	哲学	1・2・3・4①	2			○							兼1	メディア
		文学	1・2・3・4②	2			○							兼3	メディア
		芸術	1・2・3・4③	2				○						兼1	メディア
		心理学	1・2・3・4④	2				○		1					
		社会学	1・2・3・4①	2				○			1				メディア
		歴史学	1・2・3・4③	2				○						兼1	
		倫理学	1・2・3・4③	2				○						兼1	メディア
		経済学	1・2・3・4①	2				○						兼1	メディア
		科学史	1・2・3・4①	2				○						兼1	メディア
		生命倫理	1・2・3・4②	2				○		2					メディア
		基礎数学	1・2・3・4③	2				○		1					
		統計入門	1・2・3・4④	2				○		1					
		家族社会学	1・2・3・4④	2				○			1				メディア
		文化人類学	1・2・3・4③	2				○						兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4③	2				○						兼1	
		法学	1・2・3・4③	2				○						兼1	
		食と健康	1・2・3・4④	2				○						兼1	
		いのちと科学	1・2・3・4①	2				○			1				
		環境と科学	1・2・3・4②	2				○						兼2	メディア
		生活に役立つ力学	1・2・3・4③	2				○						兼1	メディア
		地域社会と言語	1・2・3・4④	2				○						兼1	メディア
小計(21科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼15	
論 理 思 考 表 現	アカデミック・ライティング	1③	1				○		4	3	2	4			
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		3	2	2	0			
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		1	3	2	1			
	小計(3科目)	—	1	2	0	—	—	—	8	7	5	5	0	—	
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○							兼3	メディア
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○				1			兼1	メディア
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○				1			兼3	集中
	地域教養ゼミナールA	2・3・4①③		2			○							兼4	
	地域教養ゼミナールB	2・3・4②④		2			○		3	1				兼6	
小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	3	1	2	0	0	兼15	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科学療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通教育科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)		2		○			1						兼1	メディア	
		ライフデザイン		2		○									兼2	集中・オムニバス	
		ボランティア		2		○						1					集中
		インターンシップ		2		○										兼1	集中
		リーダー論		2		○										兼2	メディア
		小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	1	0	1	0	0	兼4	—		
	ダイバーシティ	多様性理解 (ジェンダー論)		2			○				1				兼1	メディア	
		人間関係論		2			○								兼1	メディア	
		人権論		2			○								兼1	メディア	
		世界の宗教		2			○								兼1	メディア	
		世界の言語と文化		2			○								兼1	メディア	
		海外研修		2				○		1	1						
		小計 (6科目)	—	2	10	0	—	—	1	2	0	0	0	兼4	—		
	入門演習	英語入門演習				1		○							兼1		
		数学入門演習				1		○							兼1		
		国語入門演習				1		○							兼1		
		社会入門演習				1		○							兼1		
		生物入門演習				1		○							兼1		
		物理入門演習				1		○							兼1		
		化学入門演習				1		○							兼1		
		小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—	0	0	0	0	0	兼6	—		
	人間と社会生活の理解	科学と医学		1			○			8						オムニバス	
		解剖学概論		1			○			1							
		生理学概論		1			○			1							
微生物と人間				1		○				1							
人間発達学			1			○			1								
発達心理学				1		○			1								
生活環境科学				1		○					1						
福祉と社会問題				1		○			4	1					オムニバス		
	小計 (8科目)	—	4	4	0	—	—	14	2	1	0	0	兼0	—			
地域包括ケアシステムを	保健福祉概論		1			○			4		1						
	保健医療福祉行政論		1			○			1	1					オムニバス		
	ケアマネジメント論			1		○			2						オムニバス		
	地域包括ケアシステム論		1			○			1	1	1				オムニバス		
	リーダーシップと協働		1			○			5								
	チーム医療福祉論		1			○			5	1							
	チーム医療福祉演習		1				○		6	4	8	2					
	小計 (7科目)	—	6	1	0	—	—	13	5	9	2	0	兼0	—			
専門領域特有の科目	福祉支援工学			1		○			1								
	臨床心理学			1		○				1							
	医療行動科学			1		○			1								
	生化学			1		○			1	1					オムニバス		
	生体機能学		1			○			1								
	神経生理学		1			○			1								
	生理学実習		1				○		1	1		5			オムニバス		
	薬理学		1			○									兼1		
	病理学		1			○									兼1		
	臨床栄養学		1			○									兼2		
	一般臨床医学		1			○			1								
	内科学		1			○									兼1		
	神経内科学概論Ⅰ		1			○			1								
	神経内科学概論Ⅱ		1			○			1								
	精神医学		1			○			1								
	小児科学		1			○			1								
	整形外科Ⅰ		1			○			1								
	整形外科Ⅱ		1			○			1								
	リハビリテーション医学		1			○			2						オムニバス		
	医療安全学		1			○			3						オムニバス		
	救急医療		1			○									兼1		
	エンドオブライフ・ケア			1		○			1	1					オムニバス		
	福祉住環境論			1		○					1						
	保健医療福祉関係法規		1			○			3	1	1						
	小計 (24科目)	—	18	6	0	—	—	12	4	2	5	0	兼6	—			

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科理学療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	解剖学(運動特論)	1③	1			○			1	1					オムニバス
	解剖学実習	2①②	2					○	1	1		4			オムニバス
	中枢神経機能学	3①	1			○			3						オムニバス
	神経内科学クリニカルスタディ	2③④	1				○		1						オムニバス
	基礎運動学	1③	1			○			2			1			オムニバス
	運動学	2①	1			○			2						オムニバス
	運動学演習	2①②	1				○		2						オムニバス
	運動学実習	2③④	1				○		2			4			オムニバス
小計(8科目)	—	—	9	0	0	—	—	—	7	1	0	4	0	兼0	—
理学療法研究系	理学療法概論Ⅰ	1②	1			○			7		1	4			オムニバス
	理学療法概論Ⅱ	1③	1			○			2			1			オムニバス
	理学療法研究法	2④	1			○			7		1	4			オムニバス
	理学療法研究法演習	3①②	1				○		3			2			オムニバス
	臨床理学療法学	4①	1			○			2			4			オムニバス
	臨床運動学	2③	1			○			1			1			オムニバス
	理学療法管理学Ⅰ	3②	1			○			1		1				オムニバス
	理学療法管理学Ⅱ	3③	1			○			1		1				オムニバス
小計(8科目)	—	—	8	0	0	—	—	—	7	0	1	4	0	兼0	—
理学療法評価学系	理学療法評価学概論	1③	1			○			2						オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅰ	2①②	1				○		2						オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅱ	2①②	1				○		2			1			オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅲ	2③④	1				○		2			1			オムニバス
	理学療法評価学演習Ⅳ	2③④	1				○		2			1			オムニバス
	理学療法画像評価学	3③	1			○			1			4			共同
小計(6科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	7	0	0	4	0	兼0	—
障害・治療系理学療法学	基礎運動療法学	2④	1			○			1		1	1			オムニバス
	骨関節障害理学療法学	3①	1			○			1		1	1			オムニバス
	骨関節障害理学療法学演習	3②③	1				○		2			1		兼1	オムニバス
	神経障害理学療法学	3①	1			○			2						オムニバス
	神経障害理学療法学演習	3②③	1				○		1			2			オムニバス
	小児発達障害理学療法学	3①	1			○			1			1			オムニバス
	小児発達障害理学療法学演習	3②③	1				○		1			1			オムニバス
	内部障害理学療法学	3①	1			○			1		1			兼1	オムニバス
	内部障害理学療法学演習	3②③	1				○		1		1			兼1	オムニバス
	物理療法学	2④	1			○			3						オムニバス
	物理療法学演習	3①②	1				○		2			1			オムニバス
	義肢装具学	3①	1			○			1			1			オムニバス
	義肢装具学演習	3②③	1				○		1			1			オムニバス
	理学療法模擬患者	3③	1			○			1		1				オムニバス
	理学療法模擬患者演習	3③④	1				○		10		1	4			オムニバス
	理学療法クリニカルリーズニング	4③	1			○			7		1	4			オムニバス
	理学療法クリニカルリーズニング演習	4③④	1				○		10		1	4			オムニバス
小計(17科目)	—	—	17	0	0	—	—	—	10		1	4	0	兼0	—
地域系理学療法学	地域日常生活活動学	3①	1			○			1		1				オムニバス
	地域日常生活活動学演習	3②③	1				○		1			1			オムニバス
	地域理学療法学	3①	1			○			2		1	1			オムニバス
小計(3科目)	—	—	3	0	0	—	—	—	3	0	1	2	0	兼0	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科理学療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域特有の科目	理学療法実践系	実践理学療法学特論Ⅰ		1		○			2				1		兼1	オムニバス
	実践理学療法学特論Ⅱ	3③		1		○			2							オムニバス
	実践理学療法学特論Ⅲ	3③		1		○			2				1			オムニバス
	応用理学療法学特論Ⅰ	3③		1		○			1		1		4			オムニバス
	応用理学療法学特論Ⅱ	3③		1		○			2							オムニバス
	応用理学療法学特論Ⅲ	4③		1		○			2							オムニバス
	小計(6科目)	—	0	6	0	—	—	—	5	0	1	4	0	兼1	—	
	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ	2②	1				○	7		1	4				
	基礎臨床実習Ⅱ	3④	4					○	7		1	4				
	地域臨床実習	3④	1					○	7		1	4				
	総合臨床実習Ⅰ	4①	7					○	7		1	4				
	総合臨床実習Ⅱ	4②	7					○	7		1	4				
	小計(5科目)	—	20	0	0	—	—	—	7	0	1	4	0			
	卒業研究	卒業研究	4④		2			○	10		1	4				
	地域課題解決研究	地域課題解決研究	4①②③④		2			○	42	21	17	13	0			
小計(2科目)	—		4	0	—	—	—	42	21	17	13	0	兼0	—		
合計(164科目)			—	102	111	7	—	—	42	21	17	13	0	兼53	—	
学位又は称号		学士(保健福祉学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「人間と社会生活の理解に関する科目」から4単位以上、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」から5単位以上、「専門領域理解の基礎となる科目」から20単位以上、「基礎科目」から9単位、「基礎・研究系理学療法学」から8単位、「評価・診断系理学療法学」から6単位、「障害・治療系理学療法学」から17単位、「地域・生活系理学療法学」から3単位、「応用・実践系理学療法学」から3単位以上、「臨床実習」から20単位、「卒業研究」から2単位を修得し、合計133単位以上修得すること。								1学年の学期区分			4学期					
								1学期の授業期間			8週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																
(保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		2	3	3	5				
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		3	2	5	3				
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		1							
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		1							
	英語総合Ⅰ	1①	1				○		1							
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1						
	英語総合Ⅲ	2③		1			○			1						
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		1							
	英語表現Ⅰ	1③	1				○				1			兼1		
	英語表現Ⅱ	1④	1				○				1					
	英語表現Ⅲ	2①		1			○				1					
	英語表現Ⅳ	2②		1			○				1			兼1		
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1		
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1		
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1		
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1		
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1		
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1		
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1		
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1		
	スポーツ実技Ⅰ	1①	1				○							兼1		
	スポーツ実技Ⅱ	2③		1			○							兼1		
	保健体育理論	2④		2			○							兼1		
小計(23科目)	—	—	8	16	0	—	—	—	7	4	6	7	0	兼7		
全学共通教育科目	学際知	哲学	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア	
		文学	1・2・3・4②		2		○							兼3	メディア	
		芸術	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア	
		心理学	1・2・3・4④		2		○			1						
		社会学	1・2・3・4①		2		○				1				メディア	
		歴史学	1・2・3・4③		2		○								兼1	
		倫理学	1・2・3・4③		2		○								兼1	メディア
		経済学	1・2・3・4①		2		○								兼1	メディア
		科学史	1・2・3・4①		2		○								兼1	メディア
		生命倫理	1・2・3・4②		2		○			2						メディア
		基礎数学	1・2・3・4③		2		○			1						
		統計入門	1・2・3・4④		2		○			1						
		家族社会学	1・2・3・4④		2		○				1					メディア
		文化人類学	1・2・3・4③		2		○								兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4③		2		○								兼1	
		法学	1・2・3・4③		2		○								兼1	
		食と健康	1・2・3・4④		2		○								兼1	
		いのちと科学	1・2・3・4①		2		○				1					
		環境と科学	1・2・3・4②		2		○								兼2	メディア
		生活に役立つ力学	1・2・3・4③		2		○								兼1	メディア
		地域社会と言語	1・2・3・4④		2		○								兼1	メディア
小計(21科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼15		
論理思考表現	アカデミック・ライティング	1③	1				○		4	3	2	4				
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		3	2	2	0				
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		1	3	2	1				
	小計(3科目)	—	1	2	0	—	—	—	8	7	5	5	0			
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○							兼3	メディア	
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○				1			兼1	メディア	
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○				1			兼3	集中	
	地域教養ゼミナールA	2・3・4①③		2			○							兼4		
	地域教養ゼミナールB	2・3・4②④		2			○		3	1				兼6		
小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	3	1	2	0	0	兼15	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)		2		○			1		1				兼1 メディア 兼2 集中・オムニバス 集中 兼1 集中 兼2 メディア
		ライフデザイン	2・3・4②	2		○									
		ボランティア	2・3・4②	2		○									
		インターンシップ	2・3・4④	2		○									
		リーダー論	3・4①	2		○									
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—			1	0	1	0	0	兼4 —	
	ダイバーシティ	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4③		2		○		1	1					メディア 兼1 メディア 兼1 兼1 メディア 兼1 メディア
		人間関係論	2・3・4③	2		○									
		人権論	2・3・4④	2		○									
		世界の宗教	2・3・4④	2		○									
		世界の言語と文化	1・2・3・4④	2		○									
		海外研修	2・3・4	2			○								
	小計 (6科目)	—	2	10	0	—			1	2	0	0	0	兼4 —	
	入門演習	英語入門演習	1①②			1		○	0	0	0	0	0	0	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		数学入門演習	1①②			1		○							
国語入門演習		1①②			1		○								
社会入門演習		1①②			1		○								
生物入門演習		1①②			1		○								
物理入門演習		1①②			1		○								
化学入門演習		1①②			1		○								
小計 (7科目)		—	0	0	7	—									
人間と社会に関する生活の目	科学と医学	1②	1			○		8			1	1		オムニバス	
	解剖学概論	1①	1			○									
	生理学概論	1②	1			○									
	微生物と人間	1③		1		○									
	人間発達学	1④	1			○									
	発達心理学	1①		1		○									
	生活環境科学	2②		1		○									
	福祉と社会問題	2②		1		○									
	小計 (8科目)	—	4	4	0	—									13
地域包括ケアシステムを 発展させる科目	保健福祉概論	1①	1			○		4	1	1				オムニバス オムニバス オムニバス	
	保健医療福祉行政論	3②	1			○									
	ケアマネジメント論	3③		1		○									
	地域包括ケアシステム論	2④	1			○									
	リーダーシップと協働	4④	1			○									
	チーム医療福祉論	1②	1			○									
	チーム医療福祉演習	4③	1				○								
	小計 (7科目)	—	6	1	0	—									13
専門領域理解の基礎となる科目	福祉支援工学	2③		1		○		1	1					オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼2 兼1	
	臨床心理学	1④		1		○									
	医療行動科学	2②		1		○									
	生化学	1④		1		○									
	生体機能学	1③	1			○									
	神経生理学	1④	1			○									
	生理学実習	2①②	1				○								
	薬理学	2①②	1			○									
	病理学	1③④	1			○									
	公衆衛生学	2①		1		○									
	臨床栄養学	1③④	1			○									
	一般臨床医学	2②	1			○									
	内科学	2①②	1			○									
	神経内科学概論 I	2①	1			○									
	神経内科学概論 II	2②	1			○									
精神医学 I	2②	1			○										
精神医学 II	2③	1			○										

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎となる科目	小児科学	2③	1			○			1						兼1 オムニバス オムニバス オムニバス
	整形外科 I	2①	1			○			1						
	整形外科 II	2③	1			○			1						
	リハビリテーション医学	2④	1			○			2						
	医療安全学	2③	1			○			2						
	救急医療	2③④	1			○									
	エンドオブライフ・ケア	3①		1		○			1	1					
	福祉住環境論	2④		1		○					1				
	保健医療福祉関係法規	1①	1			○			3	1	1				
小計 (26科目)	—	—	19	7	0	—	—	—	12	4	2	5	0	兼6	—
基礎科目	解剖学 (運動特論)	1③	1			○			1	1					オムニバス
	解剖学実習	2①②	2					○	1	1		4			オムニバス
	中枢神経機能学	3①	1			○			3						オムニバス
	神経内科学クリニカルスタディ	2③④	1				○		1						オムニバス
	運動学	2①	1			○			1			1			オムニバス
	運動学実習	2③④	1					○	1			1			オムニバス
	医療画像学	3④	1			○			1						
	小計 (7科目)	—	—	8	0	0	—	—	6	1	0	5	0	兼0	—
基礎作業療法学	作業療法学概論	1①	1			○			1						
	作業療法学概論演習	1③④	2				○			1					
	作業療法研究法	3①	1			○			1						
	作業療法倫理学	2①	1			○			1						
	作業療法管理学	3③	1			○			1		1				共同
	作業療法総合演習	4③④		1			○		9	1	2	4			共同
小計 (6科目)	—	—	6	1	0	—	—	9	1	2	4	0	兼0	—	
作業科学	作業科学	1②	1			○			1						
	作業科学実習 I	1③④	1					○	1			1			共同
	作業科学実習 II	2①②	1					○		1		1			共同
小計 (3科目)	—	—	3	0	0	—	—	2	1	0	2	0	兼0	—	
作業療法評価学	作業療法評価学 I	2③	1			○			1						
	作業療法評価学 II	2④	1			○			1		1				共同
	作業療法評価学 III	3②	1			○			1			1			共同
	作業療法評価学演習	2③④	1				○		1		1	1			共同
	作業療法評価学実習	3③④	1					○	2		1	1			共同
小計 (5科目)	—	—	5	0	0	—	—	5	0	2	3	0	兼0	—	
身体障害学	身体障害治療学 I	3①	1			○			1			1			共同
	身体障害治療学 II	3②	1			○			1			1			共同
	身体障害治療学演習	3③④	1				○		1			1			共同
小計 (3科目)	—	—	3	0	0	—	—	2	0	0	1	0	兼0	—	
精神障害学	精神障害治療学 I	2③	3			○			1			1			共同
	精神障害治療学 II	3①	1			○			1			1			共同
	精神障害治療学演習	3①②	1				○		1			1			共同
	精神障害治療学実習	3③④	1				○		1			1			共同
小計 (4科目)	—	—	6	0	0	—	—	1	0	0	1	0	兼0	—	
認知障害学	認知障害治療学	3①	1			○			1						
	認知障害治療学演習	3③④	1				○		1						
小計 (2科目)	—	—	2	0	0	—	—	1	0	1	0	0	兼0	—	
発達障害学	発達障害治療学	3①	1			○			1		1	1			
	発達障害治療学実習	3③④	1					○	1		1	1			
	老年期障害治療学	3①	1			○			1			1			
小計 (3科目)	—	—	3	0	0	—	—	2	0	1	2	0	兼0	—	
地域作業療法学	地域作業療法学	3①	1			○				1	1				共同
	地域作業療法学実習	3②③④	1					○		1	1				共同
	日常生活援助論	3②	1			○			1			1			共同
	職業生活援助論	3③	1			○					1	1			共同
	福祉機器論	3②	1			○			1						
	福祉機器論演習	3③④	1				○		1		1				共同
小計 (6科目)	—	—	6	0	0	—	—	2	1	2	2	0	兼0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科作業療法学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域特有の科目	統合総合科目	作業療法理論		1		○			1						共同	
		クリニカルリーディング	4①	1		○			2	1						
		作業療法特論	3③	1			○				1					
		遂行分析学	2④	1			○			1						
		作業適用学	3②	1			○				1		1			共同
		感覚統合療法特論	3③	1			○			1		1	1			共同
		音楽療法概論	3②	1			○									兼2 オムニバス
	小計(7科目)	—	0	7	0	—	—	—	2	1	1	2	0	兼2	—	
	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ	1③④	1					○	1		1	1			共同
		基礎臨床実習Ⅱ	2①②③④	2					○		1		1			共同
		評価臨床実習	3①②③④	3					○	1			1			共同
		総合臨床実習Ⅰ	4①②	8					○	5	1	2	4			
		総合臨床実習Ⅱ	4①②	8					○	5	1	2	4			
	小計(5科目)	—	22	0	0	—	—	—	5	1	2	4	0	兼0	—	
卒業研	卒業研究	4③④		2				○	9	1	2	4				
	地域課題解決研究	4①②③④		2				○	42	21	17	13				
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	42	21	17	13	0	兼0	—	
合計(164科目)		—	104	114	7	—	—	—	42	21	17	13	0	兼47	—	
学位又は称号		学士(保健福祉学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「人間と社会生活の理解に関する科目」から4単位以上、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」から5単位以上、「専門領域理解の基礎となる科目」から19単位以上、「専門領域特有の科目」の、「基礎科目」から8単位、「基礎作業療法学」「作業科学」「作業療法評価学」「身体障害作業療法学」「精神障害作業療法学」「認知障害作業療法学」「発達・老年期障害作業療法学」「地域作業療法学」から併せて32単位、「統合総合科目」から5単位以上、「臨床実習」から22単位、「卒業研究」から2単位修得し、合計133単位以上修得すること。								1学年の学期区分			4学期					
								1学期の授業期間			8週					
								1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		2	3	3	5			
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		3	2	5	3			
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		1						
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		1						
	英語総合Ⅰ	1①	1				○		1						
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1					
	英語総合Ⅲ	2③		1			○			1					
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		1						
	英語表現Ⅰ	1③	1				○							兼1	
	英語表現Ⅱ	1④	1				○					1			
	英語表現Ⅲ	2①		1			○					1			
	英語表現Ⅳ	2②		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1	
	スポーツ実技Ⅰ	1①	1				○							兼1	
	スポーツ実技Ⅱ	2③		1			○							兼1	
	保健体育理論	2④		2			○							兼1	
小計(23科目)	—	—	8	16	0	—	—	—	7	4	6	7	0	兼7	
全学共通教育科目	学際知	哲学	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		文学	1・2・3・4②		2		○							兼3	メディア
		芸術	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		心理学	1・2・3・4④		2		○			1					
		社会学	1・2・3・4①		2		○				1				メディア
		歴史学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		倫理学	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		経済学	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		科学史	1・2・3・4①		2		○							兼1	メディア
		生命倫理	1・2・3・4②		2		○			2					メディア
		基礎数学	1・2・3・4③		2		○			1					
		統計入門	1・2・3・4④		2		○			1					
		家族社会学	1・2・3・4④		2		○				1				メディア
		文化人類学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		法学	1・2・3・4③		2		○							兼1	
		食と健康	1・2・3・4④		2		○							兼1	
		いのちと科学	1・2・3・4①		2		○				1				
		環境と科学	1・2・3・4②		2		○							兼2	メディア
		生活に役立つ力学	1・2・3・4③		2		○							兼1	メディア
		地域社会と言語	1・2・3・4④		2		○							兼1	メディア
小計(21科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼15	
論理思考表現	アカデミック・ライティング	1③	1				○		4	3	2	4			
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		3	2	2	0			
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		1	3	2	1			
	小計(3科目)	—	1	2	0	—	—	—	8	7	5	5	0		
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2		○								兼3	メディア
	国際社会の理解	2・3・4③		2		○					1			兼1	メディア
	地域情報発信論	2・3・4④		2		○					1			兼3	集中
	地域教養ゼミナールA	2・3・4①③		2		○								兼4	
	地域教養ゼミナールB	2・3・4②④		2		○			3	1				兼6	
小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	3	1	2	0	0	兼15	—	
キャリア開発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4①		2		○								兼1	メディア
	ライフデザイン	2・3・4②		2		○			1					兼2	集中・オムニバス
	ボランティア	2・3・4②		2		○					1				集中
	インターンシップ	2・3・4④		2		○								兼1	集中
	リーダー論	3・4①		2		○								兼2	メディア
小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼5	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4③		2		○				1					メディア	
	人間関係論	2・3・4③	2			○									兼1 メディア	
	人権論	2・3・4④		2		○									兼1 メディア	
	世界の宗教	2・3・4④		2		○									兼1 メディア	
	世界の言語と文化	1・2・3・4④		2		○									兼1 メディア	
	海外研修	2・3・4		2			○		1	1						
	小計 (6科目)	—	2	10	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	兼4	—
	英語入門演習	1①②			1		○									兼1
	数学入門演習	1①②			1		○									兼1
	国語入門演習	1①②			1		○									兼1
	社会入門演習	1①②			1		○									兼1
	生物入門演習	1①②			1		○									兼1
	物理入門演習	1①②			1		○									兼1
	化学入門演習	1①②			1		○									兼1
小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6	—	
理人解に 関する 社会生活 の科目	科学と医学	1②	1			○			8						オムニバス	
	解剖学概論	1①	1			○			1							
	生理学概論	1②	1			○			1							
	微生物と人間	1③		1		○				1						
	人間発達学	1④	1			○			1							
	発達心理学	1①		1		○			1							
	生活環境科学	2②		1		○					1					
	福祉と社会問題	2②		1		○			4	1						オムニバス
	小計 (8科目)	—	4	4	0	—	—	—	14	2	1	0	0	0	兼0	—
地域包括 ケアシス テムを 発展さ せる科 目	保健福祉概論	1①	1			○			4		1					
	保健医療福祉行政論	3②	1			○			1	1						
	ケアマネジメント論	3③		1		○			2							オムニバス
	地域包括ケアシステム論	2④	1			○			1	1	1					オムニバス
	リーダーシップと協働	4④	1			○			5							
	チーム医療福祉論	1②	1			○			5	1						
	チーム医療福祉演習	4③	1				○		6	4	8	2				
	小計 (7科目)	—	6	1	0	—	—	—	13	5	9	2	0	0	兼0	—
専門領域 理解の 基礎と なる科 目	臨床心理学	1③④	1			○				1						
	カウンセリング論	2③④	1			○				1						
	病理学	1③④	1			○									兼1	
	生体機能学	1②	1			○			1							
	神経生理学	1③	1			○			1							
	臨床栄養学	1③④		1		○									兼2	
	一般臨床医学	2②	1			○			1							
	内科学	2①②	1			○									兼1	
	神経内科学概論 I	2①	1			○			1							
	神経内科学概論 II	2②	1			○			1							
	精神医学	2②	1			○			1							
	小児科学	2③④	1			○			1							
	リハビリテーション医学	2④	1			○			2							
	医療安全学	2③	1			○			3							
	救急医療	2③④	1			○									兼1	
エンドオブライフ・ケア	3①②		1		○			1	1							
保健医療福祉関係法規	1①	1			○			3	1	1						
小計 (17科目)	—	15	2	0	—	—	—	9	3	1	0	0	0	兼5	—	
専門領域 特有の 科目	言語理論と言語心理	1③④	2			○									兼2	
	音声学	1②	1			○					1					
	音声学演習	1③	1				○				1					
	音声・聴覚情報処理	1③	1			○			1							
	音声・聴覚情報処理演習	1④	1				○		1							
	言語発達	1③	1			○				1	1	1				
	心理測定法	2④	1				○		1							
	学習認知心理学	1②	2			○			1							
	生涯発達心理学	3②	2			○			1							
	解剖生理学演習	1③④	1				○		4							
	脳機能画像学	2③④	1			○									兼1	
	耳鼻咽喉科学	2①②	2			○			1							
	形成外科学	3①②	1			○									兼2	
	歯科口腔外科学	3②	1			○									兼1	
小計 (14科目)	—	18	0	0	—	—	—	5	2	2	1	0	0	兼6	—	
	コミュニケーション障害学概論	1①	1			○			5	3	2	2			オムニバス・一部共同	
	コミュニケーション障害学演習	1②③④	3				○		5	3	2	2			オムニバス・一部共同	
	コミュニケーション障害学診断法	2③④	1				○		1	2	2	2			オムニバス	
	発達系障害学概論 I	2①	1			○			1	1	1				オムニバス	
	発達系障害学概論 II	2②	1			○			1	1	1				オムニバス	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門必修科目	発達系障害学演習Ⅰ(診断)	2③	1				○			1	1	1			オムニバス
	発達系障害学演習Ⅱ(評価)	3①	1				○			1	1	1			オムニバス
	発達系障害学演習Ⅲ(支援)	3②	1				○			1	1	1			オムニバス
	発達系障害学演習Ⅳ(総合・地域)	3④	1				○			1	1	1			オムニバス
	認知系障害学概論Ⅰ	2①	1				○		1	1	1				共同
	認知系障害学概論Ⅱ	2②	1				○		1	1	1				共同
	認知系障害学演習Ⅰ(診断)	2③	1				○		1	1	1				共同
	認知系障害学演習Ⅱ(評価)	3①	1				○		1	1	1				共同
	認知系障害学演習Ⅲ(支援)	3②	1				○		1	1	1				共同
	認知系障害学演習Ⅳ(総合・地域)	3④	1				○		1	1	1				共同
	聴覚系障害学概論Ⅰ	2②	1				○			1					
	聴覚系障害学概論Ⅱ	3①	1				○		1						
	聴覚系障害学演習Ⅰ(基礎聴覚検査)	2②	1				○		1	1	1	1			共同
	聴覚系障害学演習Ⅱ(補聴器)	2③	1				○			1					
	聴覚系障害学演習Ⅲ(小児聴覚検査)	2④	1				○		1						
	聴覚系障害学演習Ⅳ(人工内耳)	3①	1				○		1						
	聴覚系障害学演習Ⅴ(小児難聴・地域連携)	3④	1				○		1						
	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ(音声障害・吃音)	2①	2				○		2			1			オムニバス
	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅱ(構音障害)	2②	2				○		1						
	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ(嚥下障害・頭頸部がんリハ)	3①	2				○		1						
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅰ(音声障害・吃音評価支援法)	2③	1				○		2			1			オムニバス	
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅱ(構音障害評価支援法)	2④	1				○		1							
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅲ(嚥下・頭頸部がんリハ評価支援法)	3②	1				○		1			1		兼1	オムニバス	
コミュニケーション科学研究法	3④	1				○		5		1				オムニバス	
コミュニケーション障害学総合演習	4③	1				○		8	3	2	2			オムニバス	
小計(30科目)		-	35	0	0			8	3	2	2	0		兼1	
専門選択科目	拡大・代替コミュニケーション特論	4①		1			○		1						
	心理測定法特論	3②		1			○		1						
	音楽療法概論	4②		1			○							兼2	オムニバス
	小計(3科目)		-	0	3	0			2	0	0	0	0		兼2
臨床実習	臨床実習Ⅰ	2①~④	1					○	5	3	2	2			
	臨床実習Ⅱ	3①~④	10					○	5	3	2	2			
	臨床実習Ⅲ	4①~④	4					○	5	3	2	2			
	小計(3科目)		-	15	0	0			5	3	2	2	0		兼0
卒業研究	卒業研究	4①②③④		2				○	8	3	3	2			
	地域課題解決研究	4①②③④		2				○	42	21	17	13			
	小計(2科目)		-	0	4	0			42	21	17	13	0		兼0
合計(154科目)			-	104	104	7			42	21	17	13	0		兼55
学位又は称号	学士(保健福祉学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「人間と社会生活の理解に関する科目」から4単位以上、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」から5単位以上、「専門領域理解の基礎となる科目」から12単位以上、「専門領域特有の科目」の、「基礎科目」から18単位、「専門必修科目」から35単位、「専門選択科目」から1単位、「臨床実習」から15単位、「卒業研究」から2単位修得し、合計128単位以上修得すること。						1学年の学期区分		4学期							
						1学期の授業期間		8週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要														
(保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1①	1				○		2	3	3	5		
	大学基礎セミナーⅡ	1②	1				○		3	2	5	3		
	ICTリテラシーⅠ	1①	1				○		1					
	ICTリテラシーⅡ	1④		1			○		1					
	英語総合Ⅰ	1①	1				○		1					
	英語総合Ⅱ	1②	1				○			1				
	英語総合Ⅲ	2③		1			○			1				
	英語総合Ⅳ	2④		1			○		1					
	英語表現Ⅰ	1③	1				○				1			
	英語表現Ⅱ	1④	1				○							兼1
	英語表現Ⅲ	2①		1			○							兼1
	英語表現Ⅳ	2②		1			○				1			
	中国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	中国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	韓国語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	韓国語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2②		1			○							兼1
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2③		1			○							兼1
	スポーツ実技Ⅰ	1①		1			○							兼1
	スポーツ実技Ⅱ	2③			1		○							兼1
	保健体育理論	2④			2		○							兼1
小計 (23科目)	—		8	16	0		—		7	4	6	7	0	兼7
全学共通教育科目	哲学	1・2・3・4①		2			○							兼1
	文学	1・2・3・4②		2			○							兼3
	芸術	1・2・3・4③		2			○							兼1
	心理学	1・2・3・4④		2			○		1					
	社会学	1・2・3・4①		2			○			1				メディア
	歴史学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	倫理学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	経済学	1・2・3・4①		2			○							兼1
	科学史	1・2・3・4①		2			○							兼1
	生命倫理	1・2・3・4②		2			○		2					メディア
	基礎数学	1・2・3・4③		2			○		1					
	統計入門	1・2・3・4④		2			○		1					
	家族社会学	1・2・3・4④		2			○			1				メディア
	文化人類学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	日本国憲法	1・2・3・4③		2			○							兼1
	法学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	食と健康	1・2・3・4④		2			○							兼1
	いのちと科学	1・2・3・4①		2			○			1				
	環境と科学	1・2・3・4②		2			○							兼2
	生活に役立つ力学	1・2・3・4③		2			○							兼1
	地域社会と言語	1・2・3・4④		2			○							兼1
小計 (21科目)	—		0	42	0		—		5	2	0	0	0	兼15
論理思考表	アカデミック・ライティング	1③	1				○		4	3	2	4		
	クリティカル・シンキング	1・2④		1			○		3	2	2	0		
	プレゼンテーション演習	2・3・4①③		1			○		1	3	2	1		
小計 (3科目)	—		1	2	0		—		8	7	5	5	0	兼0
地域課題	ひろしま理解	2・3・4②		2			○							兼3
	国際社会の理解	2・3・4③		2			○				1			兼1
	地域情報発信論	2・3・4④		2			○				1			兼3
	地域教養ゼミナールA	2・3・4①③		2			○							兼4
	地域教養ゼミナールB	2・3・4②④		2			○		3	1				兼6
小計 (5科目)	—		0	10	0		—		3	1	2	0	0	兼15

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	キャリア開発	キャリアビジョン (デベロップメント)	2・3・4①		2		○			1						兼1 メディア 兼2 オムニバス
		ライフデザイン	2・3・4②		2		○					1				
		ボランティア	2・3・4②		2		○									
		インターンシップ	2・3・4④		2		○									兼1
		リーダー論	3・4①		2		○									兼2 メディア・オムニバス
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—	—	—	1	0	1	0	0		兼5	—
	ダイバーシティ	多様性理解 (ジェンダー論)	2・3・4③		2		○				1					メディア
		人間関係論	2・3・4③	2			○									兼1 メディア
		人権論	2・3・4④		2		○									兼1
		世界の宗教	2・3・4④		2		○									兼1 メディア
		世界の言語と文化	1・2・3・4④		2		○									兼1
	海外研修	2・3・4		2			○		1	1						
	小計 (6科目)	—	2	10	0	—	—	—	1	2	0	0	0		兼4	—
	入門演習	英語入門演習	1①②			1		○								兼1
		数学入門演習	1①②			1		○								兼1
国語入門演習		1①②			1		○								兼1	
社会入門演習		1①②			1		○								兼1	
生物入門演習		1①②			1		○								兼1	
物理入門演習		1①②			1		○								兼1	
化学入門演習		1①②			1		○								兼1	
小計 (7科目)	—	0	0	7	—	—	—	0	0	0	0	0		兼6	—	
人間と社会に関する生活の科目	科学と医学	1②	1			○			8						オムニバス	
	解剖学概論	1①	1			○			1							
	生理学概論	1②	1			○			1							
	微生物と人間	1③		1		○				1						
	人間発達学	1④	1			○			1							
	発達心理学	1①		1		○			1							
	生活環境科学	2②		1		○					1					
	福祉と社会問題	2②		1		○			4	1					オムニバス	
小計 (8科目)	—	4	4	0	—	—	—	13	3	2	0	0		兼0	—	
地域包括ケアシステムを 発展させる科目	保健福祉概論	1①	1			○			4		1				共同	
	保健医療福祉行政論	3②	1			○			1	1					オムニバス	
	ケアマネジメント論	3③		1		○			2						オムニバス	
	地域包括ケアシステム論	2④	1			○			1	1	1				オムニバス	
	リーダーシップと協働	4④	1			○			5						共同	
	チーム医療福祉論	1②	1			○			5	1					共同	
	チーム医療福祉演習	4③	1				○		6	4	8	2			オムニバス	
小計 (7科目)	—	6	1	0	—	—	—	13	5	9	2	0		兼0	—	
専門領域特有の科目	福祉支援工学	2③		1		○			1							
	臨床心理学	1④		1		○				1						
	カウンセリング論	2③		1		○				1						
	医療行動科学	2①		1		○			1							
	公衆衛生学	2①		1		○			1							
	精神医学Ⅰ	2②		1		○			1							
	精神医学Ⅱ	2③		1		○			1							
	小児科学	2③		1		○			1							
	エンドオブライフ・ケア	3①		1		○			1	1					オムニバス	
	福祉住環境論	2④		1		○					1					
	保健医療福祉関係法規	1①	1			○			3	1	1				オムニバス	
小計 (11科目)	—	1	10	0	—	—	—	8	3	2	0	0		兼0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
地域・生活支援の基盤となる科目	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1①②	2			○										オムニバス
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	1③④	2			○					1					
	高齢者福祉	1③④	2			○			1	1						
	障害者福祉	2①②	2			○				1						
	児童・家庭福祉	1③④	2			○				1						
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2①②	2			○			1							
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2③④	2			○			1							
	保健医療と福祉	3①②	2			○				1						
	社会保障Ⅰ	2①②	2			○				1						
	社会保障Ⅱ	2③④	2			○				1						
	貧困に対する支援	3①②	2			○				1						
小計(11科目)	-	-	22	0	0	-	-	-	3	2	3	0	0	兼0	-	
体系的に理解する科目	ソーシャルワークの基盤と専門職	2①②	2			○					1					
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2③④	2			○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2①②	2			○				1						
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2③④	2			○				1						
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3①②	2			○			1							
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3③④	2			○			1							
小計(6科目)	-	-	12	0	0	-	-	-	2	2	1	1	0	兼0	-	
ソーシャルワーク実践を修得する科目	ソーシャルワーク演習	2①②	1				○		1	1						
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	2③④	1				○		1	1						
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	3①②	1				○			2						
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	3③④	1				○			2						
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	4①②	1				○			1	1					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1③④	1				○		3	5	3	1				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2①②③④	1				○		3	5	3	1				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3①②③④	1				○		3	5	3	1				
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2③④	2					○	3	5	3	1				
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3③④	6					○	3	5	3	1				
小計(10科目)	-	-	16	0	0	-	-	-	3	5	3	1	0	兼0	-	
包括的支援を展開する科目	総合演習Ⅰ	3①②	1				○		6	10	3					
	総合演習Ⅱ	3③④	1				○		6	10	3					
	総合演習Ⅲ	4①②	1				○		6	10	3					
	総合演習Ⅳ	4③④	1				○		6	10	3					
	権利擁護を支える法制度	4①②	2			○					1					
	社会福祉調査の基礎	3①②	2			○			1	1					オムニバス	
	刑事司法と福祉	4①②	2			○			1	1						
	福祉サービスの組織と経営	4③④	2			○					1					
小計(8科目)	-	-	12	0	0	-	-	-	6	10	3	0	0	兼0		-

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 領域 特有 の 科目	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2①②		2		○				1					
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2③④		2		○				1					
	精神保健福祉の原理Ⅰ	2①②		2		○				1					
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2③④		2		○				1					
	精神保健福祉制度論	3①②		2		○				1					
	精神障害リハビリテーション論	3③④		2		○				1					
	精神保健福祉の理論と方法(専門)A	2①②		2		○				1					
	精神保健福祉の理論と方法(専門)B	4①②		2		○				1					
	精神保健福祉演習(専門)Ⅰ	3①②③④		1			○			2	2				
	精神保健福祉演習(専門)Ⅱ	4①②		1			○			2	2				
	精神保健福祉演習(専門)Ⅲ	4③④		1			○			2	2				
	精神保健福祉実習指導Ⅰ	2③④		1			○			2	5	1			
	精神保健福祉実習指導Ⅱ	3①②③④		1			○			2	5	1			
	精神保健福祉実習指導Ⅲ	4①②③④		1			○			2	5	1			
	精神保健福祉実習Ⅰ	3①②③④		3					○	2	5	1			
	精神保健福祉実習Ⅱ	4①②③④		2					○	2	5	1			
小計(16科目)	-		0	27	0	-	-	-	2	5	1	0	0	兼0	-
応用・ 関連 科目	医学概論	1③④	2			○			1						
	社会病理学	2②		1		○				1					
	適応の心理	1④		1		○			1						
	介護技術	2②		1		○				1					
	居住政策論	3③		1		○					1				
	地域介護実習	4①②		1				○			1				
	医療ソーシャルワーク	2③		1		○					1				
	家族支援論	3①		1		○					1				
	心理アセスメント実習	4①②		1				○			1				
小計(9科目)	-		2	8	0	-	-	-	2	5	1	0	0	兼0	-
卒業 研究	卒業研究	4③④		2				○	6	10	3				
	地域課題解決研究	4③④		2				○	42	21	17	13			
	小計(2科目)	-		0	4	0	-	-	42	21	17	13	0	兼0	-
合計(158科目)		-		86	144	7	-	-	42	21	17	13	0	兼43	-
学位又は称号		学士(保健福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通「学びスキル・リテラシー」から14単位以上、「学際知」から8単位以上、「論理思考表現」から2単位以上、「地域課題」から4単位以上、「キャリア開発」から4単位以上、「ダイバーシティ」から4単位以上、「人間と社会生活の理解に関する科目」から4単位以上、「地域包括ケアシステムを発展させる科目」から5単位以上、「専門領域理解の基礎となる科目」から6単位以上、「地域・生活支援の基盤となる科目」から22単位、「ソーシャルワークを体系的に理解する科目」から12単位、「ソーシャルワーク実践を修得する科目」から16単位、「包括的支援を展開する科目」から12単位以上、「応用・関連科目」から12単位以上、「卒業論文・卒業研究」から2単位を修得し、合計127単位以上を修得すること。							1学年の学期区分		4学期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要			
（総合学術研究科 保健福祉学専攻 博士課程後期）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	地域課題解決特論	<p>（概要）現在から将来ビジョンを構想する中で地域における保健福祉の課題を多角的な視点から分析し、早期発見と解決の方途を探る。住民に対する戦略的サービスの職種間連携と提供の仕組みを教授し、持続可能な地域社会構築のための生活支援、災害支援、在宅医療、地域保健、精神保健等の課題を組織レベルで改革することについて探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（25 田中 聡子／4回） 保健医療福祉サービスへのアクセス困難の要因となる貧困、低所得問題やひとり親及び養育困難家庭の課題と解決方法を学修する。孤立を予防する居場所づくりやアウトリーチの方法を検討する。</p> <p>（2 岡田 淳子／3回） 災害が人々の健康や生活に与える影響やこころの問題について探究し、保健福祉ニーズを把握する。そして、災害時要配慮者の避難行動や避難生活に対する実態をふまえ、支援方法を検討する。さらに、災害時に必要な多職種や関係団体のチームを円滑に組成し、保健福祉支援体制を整備する能力を養う。</p> <p>（7 安武 繁／4回） 地域で子育て支援、児童虐待防止対策を実施するにあたって、児童相談所、市町村保健センター、保健所、医療機関、学校や幼稚園・保育所、地域の子育て支援などの連携のあり方について考察する。</p> <p>（16 藤巻 康一郎／4回） 精神保健における発見・介入の遅れなどの問題発生メカニズムと対応法について学修し、精神疾患の予防、特に早期発見・早期介入の最新の方法について検討する。</p>	オムニバス方式
共通科目	情報伝達技術特論	<p>（概要）保健福祉において、将来その活用と普及が不可欠になると考えられる最先端の技術について学修する。具体的には、現在展開されている在宅医療での情報通信技術（ICT）やリハビリテーション・介護におけるロボット等の活用と、その今後の可能性について検討する。地域課題の解決のために利用できる最先端研究を探求する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（8 川原田 淳／6回） 生体情報の各種計測法や伝達手段について深く理解するとともに、これらに関連する最先端の技術と保健・医療・福祉における応用例について調査・研究を行う。</p> <p>（31 市村 匠／5回） 個人特定性を排除した血液検査、医療画像やレセプトデータ等のビッグデータを構築し、これらの可視化(Visual Analytics)や、AIによる自動判定を学び、在宅医療での活用法を探求する。</p> <p>（34 浦川 将／4回） ロボットを活用した歩行練習や脳活動をリアルタイムで表示するブレイン・マシン・インターフェースの機能回復効果等、近年注目されつつある機器とひとつのかかわりを通したリハビリテーションについて紹介し、機能回復をもたらす神経生理学的メカニズムを考察する視点から研究能力を習得する。</p>	オムニバス方式

<p style="text-align: center;">共通科目</p>	<p>保健福祉サービス・アウトカム特論</p>	<p>(概要) 疾病予防から生活支援まで幅広い分野を網羅している保健福祉サービスについて深く理解する。また、サービスを実施するに当たり得られたデータや評価に用いられている統計学的手法や質的研究法、更にサービス開発の方法について探究する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(30 飯田 忠行/5回) 人は、様々な環境、生活習慣(食を含む)、心理・社会的ストレスの中で生活している。健康管理と健康増進、健康寿命の延長を目指して、健康を阻害している原因を明らかにする統計学的手法について考究する。</p> <p>(7 安武 繁/5回) 行政統計情報のうち、地域保健医療福祉と関連したデータ(市町村別にみた人口あたりの保健医療福祉従事者数、保健医療福祉施設数など)をもとに、地域の健康指標との関連について分析・評価を行う。</p> <p>(25 田中 聡子/5回) 対象を生活者とみなし、多職種連携の医療・介護・福祉システムの開発・検証のため、質的研究に必要な研究デザインとデータの分析手法について学修する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">共通科目</p>	<p>専門能力開発特論</p>	<p>(概要) 保健福祉における専門職の資格取得レベルの教育から生涯にわたる専門能力開発に関する教育政策、教育方法論について考察する。世界保健機関及び我が国の高等教育政策の枠組みを踏まえた上で、それを展開するための方法論と倫理について探究し、多職種が連携して質の高いサービスが提供できる生涯研修システムを考案するための知識と技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 黒田 寿美恵/4回) 医療専門職に関連する教育政策、教育理論、教育方法論について探究し、それらを適用した専門能力開発に向けた取り組みを考察する。</p> <p>(5 津森 登志子/4回) 保健・医療・福祉分野における女性の就労継続支援・キャリアアップに関する様々な取り組み事例を学修し、専門職キャリア形成のための具体策について考察する。</p> <p>(15 久野 真矢/4回) 継続的専門能力開発のための専門職団体の役割および学術誌の使命を考察する。学術誌の質の維持・向上のための課題を検討する。</p> <p>(33 蒲 章則/3回) 世界保健機関の諸問題点、改善点を紹介し、日本政府の貢献、保健人材育成の必要性を考察する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p style="text-align: center;">専門 支持 科目</p>	<p>職種間連携マネジメント特論</p>	<p>(概要) 医療を含む保健福祉において必要とされる多職種連携の実際とその管理体制について探究する。特に、地域包括ケアにおける保健-医療-福祉-介護のシームレスな繋がりをいかに効率的・効果的に構築し維持するかという問題について考察する。地域課題解決のために必要な職種間連携にかかるマネジメントに必要な知識と技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(17 吉川ひろみ／5回) 保健福祉の現場で生じる倫理的問題について理解し解決するための手法を学修する。事例検討の他に、プレイバックシアターなどのアクションメソッドについて、体験的に学修する。</p> <p>(23 金子 努／5回) 地域包括ケア構築において不可欠な多職種連携・協働の理論と実際について、個別事例や地域ケア会議等をもとに、具体的に教授し、専門職としての思考過程を学修することで、省察的思考の獲得を促進する。多職種連携・協働については、専門職に加え、当事者、そして一般住民等の非専門職も含めたそのあり方や各人の役割と機能の違いについても学修する。</p> <p>(32 沖田 光昭／5回) 「地域包括ケアシステム」の発祥の地であり、先進地である尾道市御調町の取り組みを知る。ハード面では地域を中心とした医療機関、介護関連施設、行政及び在宅部門の拠点としての保健福祉センターの連携を学ぶ。ソフト面では住民の人生・生活を支える予防のための保健活動、急性期から慢性期までの医療、介護・福祉の統合を学修する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">専門 支持 科目</p>	<p>生涯発達支援統合特論</p>	<p>(概要) 生涯発達には胎児から成人に至るまでの心身機能発達、新婚期、育児期、教育期、排出期、向老期、退隠期の各時期における家族や組織内での社会的役割の変化を含む。それぞれの特徴、課題を理解した上で、疾病や障害を有する対象者とその家族への各専門領域における支援を考察する。また、事例を用いて、職種間連携による生涯発達支援の実際を理解し、連携のあり方を探求する。</p> <p>(オムニバス方式／12回、共同3回)</p> <p>(14 林 優子／6回) 胎児期から成人までの発達の過程における定型発達の理解を深めるとともに、非定型発達や身体障害を伴う人たちの理解を深め、その人たちが家庭や社会で豊かな人生を送るための支援を総合的に検討する。医療、リハビリテーション、特別支援教育の視点を学修する。</p> <p>(6 松森 直美／6回) 地域における個別事例を体系的に分析し、解決策を見出し評価する一連の過程において、家族看護の諸理論や移行理論、発達理論、動機づけ理論等を活用し、生涯発達の視点を深めるとともに、疾患や心身機能障害を有する対象者とその家族への各専門領域における支援への応用方法を検討する。</p> <p>(14 林, 6 松森 (共同)／3回) 職種間連携による生涯発達支援を、ケーススタディを通してより実践的なイメージをもちながら検討し、地域課題の理解と解決方法及びサービスの科学的検証方法を学修する。</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>

<p style="text-align: center;">専門支持科目</p>	<p>高齢者支援統合特論</p>	<p>(概要) 職種間連携による高齢者支援を、より高次のレベルで統合して実践するための知識と技能を修得する。加齢による代表的な疾病や障害を有する高齢者支援について事例を通して既存のサービスを多側面から分析し、高齢者がより質の高い生活を送るための支援やサービスの課題について探究する。これらを通して、新たな資源やサービスを提案する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 岡田 淳子/3回) 高齢者等の入院環境問題や介護に関する課題を探究し、多職種協働による在宅移行支援体制を整備する方略を検討する。在宅療養者が病気と共存しながら、心身機能、活動、参加、QOLの維持・向上を目指す生活支援について、エビデンスに基づいた知識・技術を学修する。</p> <p>(13 西田 征治/3回) 認知症高齢者等の在宅や地域生活支援の事例を通して、当事者や家族の心身機能、活動、参加、QOLを高める支援の課題を多角的に探究し、多職種協働の在り方、社会資源の開発について検討する。</p> <p>(15 久野 真矢/3回) 高齢者の心身機能、活動、参加、QOLを維持・向上させる環境について検討する。発達プロセスから、認知機能と日常生活機能を理解する視点を学修する。</p> <p>(18 伊集院 睦雄/3回) 認知機能に関する神経心理学的基盤と加齢変化、障害(認知症を含む高次脳機能障害)の理論を解説し、心理学の立場から医療・福祉における高齢者支援の方法を検討する。</p> <p>(28 國定 美香/3回) 介護保険における高齢者施設・居宅サービスのケアについて、個別ケアの視点から、生活課題の解決や支援方法の理解を深める。その過程を通して多職種協働、新たな資源やサービスを検討する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">専門支持科目</p>	<p>ヘルスプロモーションシステム特論</p>	<p>(概要) 多様な健康レベル・領域のヘルスプロモーションに関する国内外の実践例について、その成果の検証方法や妥当性をエビデンスレベルも考慮したうえで考察する。そのうえで、個人や地域が抱える健康課題を解決し、より健康的な社会へと導くための持続可能なシステムを考察し、成果の検証方法について言及する。さらに、そのシステムを構築・維持・発展させるための保健福祉人材の能力開発方法を提案する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 黒田 寿美恵/3回) ヘルスプロモーション(以下、HP)を支える理論について探究する。また、HP活動の5つの柱である「健康的な公政策づくり」「健康を支援する環境づくり」「地域活動の強化」「個人技術の強化」「ヘルスサービスの方向転換」に沿って実践例を分析し、多職種が協働してHP活動を推進・発展させる方略と検証方法について考察する。</p> <p>(1 青井(三宅)聡美/3回) 健康レベルを評価する際に必要なフィジカル・アセスメントについて探究し、健康増進、疾病予防に向けたHPの評価方法を検討する。</p> <p>(10 田中 聡/3回) 糖尿病などの慢性疾患患者や高齢者の健康維持・増進のための手法を身体機能面のみならず健康心理学的視点、さらにそれに必要な社会システムとしてのヘルスプロモーションについて学修する。</p> <p>(12 森 大志/3回) ヘルスプロモーション(以下、HP)活動の一翼となる健康生活の習慣作りについての方策を提案できる素地を獲得する。そのため、脳疾患の発生要因、それによる脳へのダメージと発生する症状のついての関係を学修する。</p> <p>(26 細羽 竜也/3回) 慢性疾患等につながるストレスへの心理社会的要因の影響について、その実態を評価方法とともに学修する。また心理社会的要因の改善に向けたヘルスプロモーション活動を学修し、自らの専門性と照らし合わせた実践について考察する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p style="text-align: center;">専門科目</p>	<p style="text-align: center;">地域保健学・実践看護学分野</p>	<p>地域保健学・実践看護学特別講義</p> <p>(概要) 地域保健学・実践看護学を自らの専門としない学生が、今日の主要な健康課題（がんや生活習慣病、発達障害等）及び少子超高齢社会における地域包括ケアの諸課題、それらの課題に対するヘルスケアの展開方法や看護学及び関連分野の研究と人材の能力開発の方法を理解し、これらの向上と発展に向けて探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 岡田ゆみ／3回) 公衆衛生の視点から、アルコール依存症などの慢性疾患を持ちながら生活する人々を支援するための住民教育について自らの専門性と関連づけながら学修し、それらを地域で応用・発展させていくための取り組みを探究する。</p> <p>(6 松森 直美／2回) 保健医療福祉における子どもの権利の歴史の変遷、小児看護学の目的と課題、小児看護ケアモデルを活用した課題解決方法および専門職者への教育方法の開発と評価方法を理解する。</p> <p>(2 岡田 淳子／3回) 感染管理学の視点から、保健福祉に関わるエビデンスに基づいた感染予防対策を探究する。自らの専門性に重要となる感染症の課題を明確にし、最新の知見から感染防御策を学修する。それらを実践するための組織的な取り組みを探究する。</p> <p>(1 青井 (三宅) 聡美／3回) フィジカルアセスメントの視点から、健康課題に対する看護専門職の予防支援について学修し、自らの専門性と関連づけ疾病予防、障害予防について探究する。</p> <p>(4 黒田 寿美恵／2回) がん看護学・慢性看護学の視点から、課題解決に向けた看護専門職の実践的役割、研究方法とその知見、専門能力開発の方法について学修し、それらを自らの専門性に照らし合わせ、向上と発展に向けた探究を行う。</p> <p>(5 津森 登志子／2回) 解剖生理学的視点から、看護技術の客観的評価を行う解析法を学修する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">専門科目</p>	<p style="text-align: center;">地域保健学・実践看護学分野</p>	<p>地域保健学・実践看護学特別演習</p> <p>(概論) 地域保健学・実践看護学を自らの専門としない学生が、地域保健学・実践看護学分野の研究論文について、地域保健学・実践看護学特別講義で修得した知識・技能を適用して、目的と方法の整合性、倫理的配慮、データ解釈の妥当性などを批判的に吟味する。また、地域保健学・実践看護学分野における専門能力開発の方法について自らの経験を踏まえて吟味したうえで、保健福祉チームに関する複合的な能力開発システムの構築・発展に向けた提案をする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 岡田 ゆみ／3回) 断酒しているアルコール依存症者の生活支援に関する論文の批判的吟味を行う。また、自らの専門分野における障害者支援のあり方をふまえ、保健福祉チームにおける地域での対策を考案する。</p> <p>(6 松森 直美／2回) 小児看護学、家族看護学分野の患者教育または専門職教育に関する論文の批判的吟味と具体的データの分析・解釈を行う。</p> <p>(2 岡田 淳子／3回) 効果的に活用できるエビデンスに基づいた感染予管理に関する論文の批判的吟味を行う。さらに、自らの専門分野に必要な感染防御策を立案し、チームで組織的に行う感染防御策を考案する。</p> <p>(4 黒田 寿美恵／2回) がん看護、慢性看護に関する研究論文を批判的に吟味したうえで自らの専門分野への発展性について考察する。また、がん看護、慢性看護における専門能力開発の方法を自らの専門分野と比較したうえで、がんや慢性病をもつ患者に対する保健福祉チームの高度な実践を可能にする能力開発方法を考案する。</p> <p>(5 津森 登志子／2回) 解剖生理学的視点から看護技術の客観的評価を行う解析法について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専門科目	地域保健学・実践看護学分野	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅰ	<p>(概要) 地域保健学・実践看護学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第一段階に位置付けられ、博士論文作成過程を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅰを履修しなければならない。</p> <p>(2 岡田 淳子, 4 黒田 寿美恵, 5 津森 登志子, 6 松森 直美) 博士論文作成のための文献レビューを完成させ、自らの研究課題についてその意義や研究方法の妥当性を吟味したうえで研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得る。データ収集の準備を整え、予備的研究を実施する。研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、8月と2月に研究計画や予備的研究に関する研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
専門科目	地域保健学・実践看護学分野	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 地域保健学・実践看護学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第二段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅱを履修しなければならない。</p> <p>(2 岡田 淳子, 4 黒田 寿美恵, 5 津森 登志子, 6 松森 直美) 研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会上に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
専門科目	地域保健学・実践看護学分野	地域保健学・実践看護学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 地域保健学・実践看護学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程最終段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営、研究発表・論文投稿を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅲを履修しなければならない。</p> <p>(2 岡田 淳子, 4 黒田 寿美恵, 5 津森 登志子, 6 松森 直美) 研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会上に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	

専門科目 総合リハビリテーション分野（運動行動障害学領域）	運動行動障害学特別講義	<p>（概要）運動行動障害学を自らの専門としない学生が、脳機能、筋骨格、神経と運動行動の関連性を理解する。運動行動障害の種類を知り、予防法及び障害発生時の対処法を理解する。今日のリハビリテーションにおける運動行動障害に関連する最新の研究を理解し、保健・医療・福祉における課題を見出し、解決法を探究する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 田中 聡／4回） 理学療法的観点から、種々の機能・形態障害に対する評価・治療法を知る。IT技術を利用した運動療法の研究、健康増進のための身体機能評価方法の検討や健康科学に関する研究について学修する。</p> <p>（11 西上 智彦／4回） 疼痛発生メカニズム、疼痛防御システムを理解し、運動行動障害に伴う疼痛への対処法について学修する。</p> <p>（12 森 大志／4回） 脳機能と姿勢や歩行制御との関係を理解し、運動行動障害に対するニューロリハビリテーションの基礎及びその臨床応用について学修する。</p> <p>（29 小野 武也／3回） 神経疾患や骨・関節疾患さらに廃用症候群などが運動行動障害に与える影響、また運動が生体の各器官に与える影響について学修する。</p>	オムニバス方式
	運動行動障害学特別演習	<p>（概要）運動行動障害学を自らの専門としない学生が、運動行動障害学領域の研究論文について、運動行動障害学特別講義で修得した知識・技能を適用して、目的と方法の整合性、倫理的配慮、データ解釈の妥当性などを批判的に吟味する。また、運動行動障害学領域における専門能力開発の方法について自らの経験を踏まえて吟味したうえで、保健福祉チームに関する複合的な能力開発システムの構築・発展に向けた提案をする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 田中 聡／4回） 種々の機能・形態障害に対する評価・治療法、IT技術を利用した運動療法の実際や、地域における健康増進活動のフィールド調査について、論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>（11 西上 智彦／4回） 疼痛の評価と対処について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>（12 森 大志／4回） 運動行動障害の評価、ニューロリハビリテーションの実践について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>（29 小野 武也／3回） 病理的方法や生体工学的方法を駆使した定量的評価方法について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p>	オムニバス方式

専 門 科 目 総 合 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 分 野 （ 運 動 行 動 障 害 学 領 域 ）	運 動 行 動 障 害 学 特 別 研 究 I	<p>（概要）運動行動障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第一段階に位置付けられ、博士論文作成過程を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Iを履修しなければならない。</p> <p>（10 田中 聡, 11 西上 智彦, 12 森 大志） 博士論文作成のための文献レビューを完成させ、自らの研究課題についてその意義や研究方法の妥当性を吟味したうえで研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得る。データ収集の準備を整え、予備的研究を実施する。研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、8月と2月に研究計画や予備的研究に関する研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>
	運 動 行 動 障 害 学 特 別 研 究 II	<p>（概要）運動行動障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第二段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究IIを履修しなければならない。</p> <p>（10 田中 聡, 11 西上 智彦, 12 森 大志） 研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>
	運 動 行 動 障 害 学 特 別 研 究 III	<p>（概要）運動行動障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程最終段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営、研究発表・論文投稿を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究IIIを履修しなければならない。</p> <p>（10 田中 聡, 11 西上 智彦, 12 森 大志） 関連学会などでの発表から得られた研究者からの意見を踏まえ、論文の内容を吟味する。論文投稿後の査読結果に対応する。研究発表会で研究報告を行う。後期には、予備審査のための要旨を作成し、博士論文を完成させる。審査委員会（最終試験）、公聴会でのプレゼンテーションの準備を行う。他分野・他領域の学生と学際的なディスカッションを積極的に行う。 学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>

専 門 科 目	総合リハビリテーション分野 (作業遂行障害学領域)	作業遂行障害学特別講義	<p>(概要) 作業遂行障害学を自らの専門としない学生が、疾患や心身機能障害、人生の移行期に生じる作業遂行障害を理論を理解する。作業遂行障害の種類を知り、予防法と対処法を理解する。健康的なライフスタイルにおける作業遂行障害に関連する最新の研究を理解し、保健・医療・福祉における課題を見出し、解決法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 西田 征治／4回) 身体・認知機能の障害を有する人の行動や作業遂行の特性とその影響要因を分析し、作業遂行やQOLを改善するための評価・治療・支援技術、および地域高齢者を対象とした作業に基づく認知症予防の方法や家族支援について先行研究の紹介や抄読を通して学修する。</p> <p>(15 久野 真矢／3回) 作業遂行に影響を与える環境要因について考察する。認知機能と日常生活機能について、発達プロセスの視点からのアプローチ法を学修する。</p> <p>(16 藤巻 康一郎／4回) 精神疾患の早期発見や予防、入院患者早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションにおける個別適正化プログラムについて先行研究の紹介や抄読を通して学修する。</p> <p>(17 吉川 ひろみ／4回) 作業を治療に用いてきた作業療法の伝統から誕生した作業科学の歴史を学修し、作業の効果を実証的に明らかにするための研究法を学修する。</p>	オムニバス方式
		作業遂行障害学特別演習	<p>(概要) 作業遂行障害学を自らの専門としない学生が、作業遂行障害領域の研究論文について、作業遂行障害特別講義で修得した知識・技能を適用して、目的と方法の整合性、倫理的配慮、データ解釈の妥当性などを批判的に吟味する。また、作業遂行障害領域における専門能力開発の方法について自らの経験を踏まえて吟味したうえで、保健福祉チームに関する複合的な能力開発システムの構築・発展に向けた提案をする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 西田 征治／4回) 身体・認知機能の障害を有する人の行動や作業遂行の特性とその影響要因の分析、作業遂行やQOLを改善するための評価・治療・支援技術、認知症予防や家族支援について、関連する論文の批判的吟味と、具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(15 久野 真矢／3回) 認知機能と日常生活機能について、関連する論文の批判的吟味と、具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(16 藤巻 康一郎／4回) 精神疾患の早期発見や予防、入院患者早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションにおける個別適正化プログラムについて、関連する論文の批判的吟味と、具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(17 吉川 ひろみ／4回) 作業科学研究及び作業の効果について、関連する論文の批判的吟味と、具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p>	オムニバス方式

専 門 科 目	総 合 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 分 野 （ 作 業 遂 行 障 害 学 領 域 ）	作業遂行障害学特別研究 I	<p>（概要）作業遂行障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第一段階に位置付けられ、博士論文作成過程を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Iを履修しなければならない。</p> <p>（13 西田 征治, 15 久野 真矢, 16 藤巻 康一郎, 17 吉川 ひろみ）</p> <p>博士論文作成のための文献レビューを完成させ、自らの研究課題についてその意義や研究方法の妥当性を吟味したうえで研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得る。データ収集の準備を整え、予備的研究を実施する。研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、8月と2月に研究計画や予備的研究に関する研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		作業遂行障害学特別研究 II	<p>（概要）作業遂行障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第二段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究IIを履修しなければならない。</p> <p>（13 西田 征治, 15 久野 真矢, 16 藤巻 康一郎, 17 吉川 ひろみ）</p> <p>研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会上に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		作業遂行障害学特別研究 III	<p>（概要）作業遂行障害学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程最終段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営、研究発表・論文投稿を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究IIIを履修しなければならない。</p> <p>（13 西田 征治, 15 久野 真矢, 16 藤巻 康一郎, 17 吉川 ひろみ）</p> <p>関連学会などでの発表から得られた研究者からの意見を踏まえ、論文の内容を吟味する。論文投稿後の査読結果に対応する。研究発表会で研究報告を行う。後期には、予備審査のための要旨を作成し、博士論文を完成させる。審査委員会（最終試験）、公聴会でのプレゼンテーションの準備を行う。他分野・他領域の学生と学際的なディスカッションを積極的に行う。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	

専 門 科 目	総 合 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 分 野 (コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 障 害 ・ 脳 科 学 領 域)	<p>コミュニケーション障 害・ 脳科学特別講義</p>	<p>(概要) コミュニケーション障害・脳科学を自らの専門としない学生が、コミュニケーション障害、高次脳機能障害、および摂食嚥下障害に関連するリハビリテーションについての最新の研究を理解し、保健・医療・福祉における課題を見出し、解決法を探究する。これらの課題に対するリハビリテーションの展開方法について、臨床神経学、言語聴覚療法学、及び関連分野の知見から科学的に検証し、コミュニティヘルスの発展に寄与する言語聴覚療法の実践的な役割について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 伊集院 睦雄／4回) 認知神経心理学の観点から、高次脳機能障害における認知機能の評価と対処法について学修する。</p> <p>(19 小澤 由嗣／4回) 構音障害(機能性、器質性、神経・筋原性)を有する人の発話機能およびコミュニケーションの臨床的評価・支援方法の現状と課題について学修する。</p> <p>(21 原田 俊英／3回) 脳血管障害、認知症、パーキンソン病などの神経疾患の病態生理、神経生理学的検査、治療等について学修する。</p> <p>(22 矢守 麻奈／4回) 認知機能・発声発語嚥下機能の加齢性変化・障害について、障害機序の解明と、有効な障害予防・リハビリテーション方法について学修する。</p>	オムニバス方式
		<p>コミュニケーション障 害・脳科学特別演習</p>	<p>(概要) コミュニケーション障害・脳科学を自らの専門としない学生が、コミュニケーション障害、高次脳機能障害、および摂食嚥下障害に関連するリハビリテーションについて、具体的なデータに基づいた科学的検証を行う。コミュニケーション障害・脳科学領域の研究論文について、目的と方法の整合性、倫理的配慮、データ解釈の妥当性など批判的に吟味する。当該領域における専門能力開発の方法について自らの経験を踏まえて吟味したうえで、保健福祉チームに関する複合的な能力開発システムの構築・発展に向けた提案をする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 伊集院 睦雄／4回) 認知神経心理学の観点から、高次脳機能障害における認知機能の評価と対処法について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(19 小澤 由嗣／4回) 認知神経心理学の観点から、高次脳機能障害における認知機能の評価と対処法について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(21 原田 俊英／3回) 脳血管障害、認知症、パーキンソン病等、脳神経内科疾患、老年における病態学・リハビリテーション医学について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(22 矢守 麻奈／4回) 認知機能・発声発語嚥下機能の加齢性変化・障害について、障害機序の解明と、有効な障害予防・リハビリテーション方法について、関連する論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p>	オムニバス方式

専 門 科 目	総合リハビリテーション分野 (コミュニケーション障害・脳科学領域)	コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅰ	<p>(概要) コミュニケーション障害・脳科学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第一段階に位置付けられ、博士論文作成過程を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅰを履修しなければならない。</p> <p>(19 伊集院 睦雄, 21 小澤 由嗣, 22 原田 俊英, 23 矢守 麻奈)</p> <p>博士論文作成のための文献レビューを完成させ、自らの研究課題についてその意義や研究方法の妥当性を吟味したうえで研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得る。データ収集の準備を整え、予備的研究を実施する。研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、研究計画や予備的研究に関する研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅱ	<p>(概要) コミュニケーション障害・脳科学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第二段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅱを履修しなければならない。</p> <p>(19 伊集院 睦雄, 21 小澤 由嗣, 22 原田 俊英, 23 矢守 麻奈)</p> <p>研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		コミュニケーション障害・脳科学特別研究Ⅲ	<p>(概要) コミュニケーション障害・脳科学を自らの専門とする学生の博士論文作成過程最終段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営、研究発表・論文投稿を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅲを履修しなければならない。</p> <p>(19 伊集院 睦雄, 21 小澤 由嗣, 22 原田 俊英, 23 矢守 麻奈)</p> <p>関連学会などでの発表から得られた研究者からの意見を踏まえ、論文の内容を吟味する。論文投稿後の査読結果に対応する。研究発表会で研究報告を行う。後期には、予備審査のための要旨を作成し、博士論文を完成させる。審査委員会(最終試験)、公聴会でのプレゼンテーションの準備を行う。他分野・他領域の学生と学際的なディスカッションを積極的に行う。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	

専 門 科 目	ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス 分 野	<p>ヒューマンサービス特別講義</p> <p>(概要) ヒューマンサービス分野を自らの専門としない学生が、生活問題を個人、家族、社会それぞれの側面、及び全体システムとして理解・解決するための包括的支援体系であるヒューマンサービスについて、効果的に機能を発揮するための具体的な展開と検証の方策を、実践的に修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 金子 努／3回) ケアマネジメント・プログラムの評価法について、具体的に学修する。</p> <p>(24 住居 広士／3回) 介護福祉学と医療介護学の調査研究から、介護モデルと介護職などの標準化と専門性について学修する。</p> <p>(25 田中 聡子／3回) 現代社会における生活問題についてヒューマンサービス領域から、問題の発生要因、背景因子を読み解くソーシャルワークリサーチの方法論について学修し、実証研究に基づく論文の批判的検討および政策理論研究について考察する。</p> <p>(26 細羽 竜也／3回) 心理学的知見を背景として、保健福祉専門職のサービス評価や職場等のコミュニティ支援の方法について学修し、当事者支援のためのストレスマネジメントに関する研究を知る。</p> <p>(27 大下 由美／3回) 論理と実証を念頭におき、家族とその背景システムから構成される地域社会の諸問題の解決に必要な、哲学的基礎および社会理論から構成される理論的知識、さらに評定法、介入法、そして効果測定法を要素とする臨床的知識についての研究法を学修する。</p>	オムニバス方式
	ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス 分 野	<p>ヒューマンサービス特別演習</p> <p>(概要) ヒューマンサービス分野を自らの専門としない学生が、ヒューマンサービス分野の研究論文について、ヒューマンサービス特別講義で修得した知識・技能を適用して、目的と方法の整合性、倫理的配慮、データ解釈の妥当性などを批判的に吟味する。また、ヒューマンサービス分野における専門能力開発の方法について自らの経験を踏まえて吟味したうえで、保健福祉チームに関する複合的な能力開発システムの構築・発展に向けた提案をする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(23 金子 努／3回) ケアマネジメント・プログラムの評価法について、論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(24 住居 広士／3回) 介護福祉学と医療介護学の調査研究から、介護モデルと介護職などの標準化と専門性について、論文の批判的吟味と具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(25 田中 聡子／3回) 現代社会における生活問題についてヒューマンサービス領域から、理論的整理を試みるとともに、仮説の構築、仮説の検証のためのソーシャルワークリサーチの方法論を学修する。実証研究に基づく論文の批判的検討および具体的なデータに基づく研究方法を、演習を通して学修する。</p> <p>(26 細羽 竜也／3回) 調査・実践における評価における心理学的指標の選択や指標の変化を適切に捉えることのできる量的・質的研究の分析方法を、論文の検討や具体的なデータに基づく演習を通して学修する。</p> <p>(27 大下 由美／3回) 特別講義で深めた理論と臨床についての知識を基に、地域社会において直面する諸課題の具体的な解決法について、ヒューマンサービスとしての臨床的な演習を行い、介入過程と技法の使用法およびその効果測定の実際について学修する。</p>	オムニバス方式

専 門 科 目	ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス 分 野	ヒューマンサービス特別 研究Ⅰ	<p>(概要) ヒューマンサービス分野を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第一段階に位置付けられ、博士論文作成過程を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅰを履修しなければならない。</p> <p>(23 金子 努, 24 住居 広士, 25 田中 聡子, 26 細羽 竜也, 27 大下 由美)</p> <p>博士論文作成のための文献レビューを完成させ、自らの研究課題についてその意義や研究方法の妥当性を吟味したうえで研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得る。データ収集の準備を整え、予備的研究を実施する。研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、8月と2月に研究計画や予備的研究に関する研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		ヒューマンサービス特別 研究Ⅱ	<p>(概要) ヒューマンサービス分野を自らの専門とする学生の博士論文作成過程第二段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅱを履修しなければならない。</p> <p>(23 金子 努, 24 住居 広士, 25 田中 聡子, 26 細羽 竜也, 27 大下 由美)</p> <p>研究計画に基づいて、データ収集と解析・分析を実施する。研究内容を関連学会で公表し広く意見を求めるため、学術集会上に演題を登録する。学術集会で得られた意見も参考に論文の精度を高め、原著論文の投稿に向けた準備を行う。研究の進捗状況について指導を受けるため、また研究プレゼンテーションスキル、質疑応答能力の向上を図るため、前後期末に研究発表会を実施する。研究発表会の企画・運営を他分野・他領域の学生と協働して実施する。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	
		ヒューマンサービス特別 研究Ⅲ	<p>(概要) ヒューマンサービス分野を自らの専門とする学生の博士論文作成過程最終段階に位置付けられ、学術的・学際的なディスカッションやそのための企画・運営、研究発表・論文投稿を通して、研究における倫理的な配慮を身につけるとともに、適切な方法論を用いて自ら研究を推進し、その成果発表に取り組む知識・技能・態度を修得する。なお、学生は主研究指導教員が担当する特別研究Ⅲを履修しなければならない。</p> <p>(23 金子 努, 24 住居 広士, 25 田中 聡子, 26 細羽 竜也, 27 大下 由美)</p> <p>関連学会などでの発表から得られた研究者からの意見を踏まえ、論文の内容を吟味する。論文投稿後の査読結果に対応する。研究発表会で研究報告を行う。後期には、予備審査のための要旨を作成し、博士論文を完成させる。審査委員会(最終試験)、公聴会でのプレゼンテーションの準備を行う。他分野・他領域の学生と学際的なディスカッションを積極的に行う。</p> <p>学生1名に対して、主研究指導教員1名と副研究指導教員2名の体制で指導を行う。</p>	

広島県公立大学法人 設置認可等に関する組織の移行表

令和3年度			入学 定員	収容 定員
県立広島大学大学院				
総合学術研究科	人間文化学専攻	修士課程(M)	10	20
	情報マネジメント専攻	修士課程(M)	10	20
	生命システム科学専攻	博士課程前期(M)	30	60
		博士課程後期(D)	5	15
	保健福祉学専攻	修士課程(M)	20	40
研究科計			75	155
経営管理研究科	ビジネス・リーダーシップ専攻	専門職学位課程	25	50
研究科 計			25	50
県立広島大学				
地域創生学部	地域創生学科	地域文化コース	75	300
		地域産業コース	90	360
		健康科学コース	35	140
		学部計	200	800
生物資源科学部	地域資源開発学科		40	160
		生命環境学科	100	400
	学部計	140	560	
保健福祉学部	保健福祉学科	看護学コース	60	240
		理学療法学コース	30	120
		作業療法学コース	30	120
		コミュニケーション障害学コース	30	120
		人間福祉学コース	40	160
		学部計	190	870
合計			530	2,120
叡啓大学				
ソーシャルシステムデザイン学部	ソーシャルシステムデザイン学部		100	400
合計			100	400

令和4年度			入学 定員	収容 定員	変更の事由
県立広島大学大学院					
総合学術研究科	人間文化学専攻	修士課程(M)	10	20	
	情報マネジメント専攻	修士課程(M)	10	20	
	生命システム科学専攻	博士課程前期(M)	30	60	
		博士課程後期(D)	5	15	
	保健福祉学専攻	博士課程前期(M)	20	40	課程名の変更
	博士課程後期(D)	5	15	課程の変更(認可申請)	
研究科計			80	170	
経営管理研究科	ビジネス・リーダーシップ専攻	専門職学位課程	25	50	
研究科計			25	50	
県立広島大学					
地域創生学部	地域創生学科	地域文化コース	75	300	
		地域産業コース	90	360	
		健康科学コース	35	140	
		学部計	200	800	
生物資源科学部	地域資源開発学科		40	160	
		生命環境学科	100	400	
	学部計	140	560		
保健福祉学部	保健福祉学科	看護学コース	60	240	
		理学療法学コース	30	120	
		作業療法学コース	30	120	
		コミュニケーション障害学コース	30	120	
		人間福祉学コース	40	160	
		学部計	190	870	
合計			530	2,120	
叡啓大学					
ソーシャルシステムデザイン学部	ソーシャルシステムデザイン学部		100	400	
合計			100	400	